

KENWOOD

オーディオビデオサラウンドレシーバー

KRF-X9080D

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

付属のリモコンについて

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は、注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。



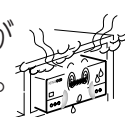
お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。











- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。(説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります)



警告

<p>！ 交流100ボルトの電圧で使用する</p> <p>この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。</p>	<p>⊘ 電源コードを傷つけない</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。</p> <p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。</p> <p>コードが傷つき、火災・感電の原因となります。</p>  <p>電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
<p>⊘ 船舶などの直流(DC)電源には接続しない</p> <p>火災の原因となります。</p>	<p>⊘ 異常が起きた場合は電源プラグを抜く</p> <p>内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p> <p>煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。</p> 
<p>⊘ 通風孔をふさがない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。 ●布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。 ●風通しの悪い狭い所で使用しない。 <p>通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> 	<p>⊘ 水をかけたりぬらしたりしない</p> <p>火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。</p>
<p>⊘ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない</p> <p>感電の原因となります。</p>	<p>⊘ 雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない</p> <p>感電の原因となります。</p>

警告

<p> 電源プラグを定期的に清掃する</p> <p>電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。</p> <p>電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。</p>  <p>きれいにしましょう</p>	<p> 落下した機器は電源プラグを抜く</p> <p>機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
<p> 機器の上に花瓶やコップなど水のいった容器を置かない</p> <p>水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。</p>	<p> 電池は乳幼児の手の届かないところに置く</p> <p>電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。</p> <p>万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。</p>
<p> 機器の内部に水や異物を入れない</p> <p>機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。</p> <p>火災・感電の原因となります。</p>	<p> 乾電池は充電しない</p> <p>電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。</p>
<p> 機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない</p> <p>本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。</p> 	<p> 機器のケースを開けたり改造したりしない</p> <p>内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。</p> <p>点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。</p>

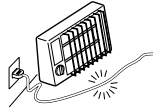
注意

<p> カセットテープ、ディスク挿入口に手を入れない</p> <p>手のはさまれて、けがの原因となることがあります。</p> <p>特にお子様にはご注意ください。</p>	<p> レーザー光源をのぞき込まない</p> <p>レーザー光が目にあたると、視力障害を起こすことがあります。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

⚠ 注意

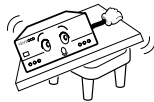
⊘ 電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



⊘ 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

⊘ 温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

⚠ アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

⚠ 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを根元まで差し込んでみてもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

➡ 長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

➡ 移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。

コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

➡ お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。

⊘ 電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



⚠ 注意



機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。

あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



機器の上には重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。

倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。



耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。



長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。

ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。



電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"-")の向き)に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。

液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。



定期的な内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口にて費用を含めご相談ください。

内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

はじめに

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の4つの章に分かれています。

準備編

安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとて複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編

本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

リモコン操作編

他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器（テレビやビデオ、CDプレーヤー等）が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

その他

「故障かな?と思ったら」、「定格」などを示してあります。

セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケット

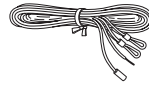


楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分いたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

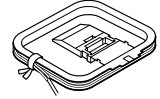
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

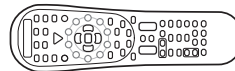
FM 室内アンテナ(1本)



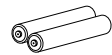
AM ループアンテナ(1個)



リモコン(1個)
(RC-R0820)



リモコン用単3乾電池(2本)



本機の特長

多彩なホームシアター機能

本機には、ご家庭で映像ソフトやオーディオソースを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。 → [34]

THX

THXモードはTHX特有の機能を作動させ、ご家庭で映画館のような雰囲気を楽しめます。 → [36]

THX Surround EX

THX Surround EXモードでは、Dolby Digital Surround EX技術を使ってサウンドトラックをミキシングする時に追加されたチャンネルを再生することができます。このチャンネルはサウンドバックと呼ばれます。THX Surround EXモードはTHX特有の機能を作動させ、ご家庭で映画館のような雰囲気を楽しめます。 → [36]

Dolby Digital および Dolby Digital EX

Dolby DigitalリッスンモードはDolby Digitalフォーマット(5.1channel)のサウンドソースを楽しむことができます。このフォーマットでは、最大5.1チャンネルの独立したデジタル信号が入力されるので、従来のドルビーデジタルサウンドソースに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。Dolby Digital Surround EXフォーマットは、サウンドバックチャンネルを従来の左右のサウンドチャンネルのサウンドソース上に埋め込むことができ、再生する際は、サウンドバックチャンネル用のスピーカーを視聴する場所の後ろに置くことにより、映画館で体験するような、音の躍動感をご家庭で楽しむことができます。THX Surround EXおよびDolby Digital EXリッスンモードは両方ともDolby Digital Surround EXフォーマットのサウンドソースを楽しむためのリッスンモードですが、好みにより使い分けすることができます。

Dolby PRO LOGIC II および Dolby PRO LOGIC IIx

DOLBY PRO LOGIC IIは、従来のPRO LOGICとの互換性を持ちながら、より高いサウンド効果を生み出します。通常のステレオ録音やドルビーサラウンド録音のソフトでも、「5.1ch」のように聞こえます。PRO LOGIC IIは空間全体に影響を及ぼすような、前後に広がりのあるサウンド空間をつくり出すのが特長です。PRO LOGIC IIは [DOLBY SURROUND] マークのあるビデオソフトでは感動的なサウンドサウンドを生み出し、音楽CDでは3次元的なサウンド空間をつくり出します。お好きな音楽で本格的なステレオサウンドをお楽しみください。DOLBY PRO LOGIC IIxは、これまでのDOLBY PRO LOGIC IIを拡張し、ステレオや5.1チャンネルのソースを6.1チャンネルまたは7.1チャンネル化してこれまでにないほど自然に包み込まれるような臨場感あふれるサウンドサウンドを体験することができます。特に7.1チャンネルを選択した場合は、後方においてより定位感のあるサウンド効果を楽しむことができます。

DTS 96/24

DTS 96/24はサンプリング周波数を96kHzに上げることにより、48kHzにも及ぶ広い周波数帯域を可能としています。また、最高で24bitの分解能を有し、DVDビデオのオリジナル・マスター同等の96kHz/24bitの広大なダイナミックレンジを実現しています。同時に、これまでのDTSサラウンドシステム同様、マルチチャンネルに対応しており、DTS 96/24で録音されたDVDやCDでは広い周波数帯域、ダイナミックレンジでマルチチャンネルを楽しむことができます。

DTS-ES

DTS-ES (Extended Surround) は 従来の5.1chのサウンドを発展させ、バックサウンドチャンネルが加わった6.1chサウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD、CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサウンドを持つDTS-ES Discrete 6.1 と マトリクス技術を駆使し左右のサウンドチャンネルに埋め込まれたバックサウンドを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性に持ちます。加えられたバックサウンドチャンネルによる6.1chサウンド再生は 後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。

NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な6チャンネルサウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための"CINEMA"モードと音楽を楽しむための"MUSIC"モードの2つのモードがあります。

重要:

DTSディスクをCD、LDまたはDVDプレーヤーで再生するとアナログ出力チャンネルにノイズが乗ることがありますので、デジタル出力を本機に接続することを推奨します。

AAC

AAC(Advanced Audio Coding) は高音質と高圧縮率を多チャンネルでも両立できる特長を持ち、5.1チャンネルなどのマルチチャンネル信号を送信するのに適したマルチチャンネル音声フォーマットです。現在BSデジタル放送に採用されていますので、BSデジタル放送で配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画などを、臨場感あるサウンド再生でお楽しみいただけます。

DSP サラウンドモード

本機のDSP(デジタルシグナルプロセッサ)では、「ARENA」、「JAZZ CLUB」、「THEATER」、「STADIUM」、「DISCO」といった様々な質の高い音場効果が得られます。

ACTIVE EQ

ACTIVE EQモードは再生音をより迫力のあるものにします。ACTIVE EQモードによりどのような条件においてもより印象的な音響効果を楽しむことができます。

SPEAKER EQ

組み合わせられるスピーカーの特性に合った調整を行う機能で、スピーカーのサイズに合った特性にします。小型スピーカーなど、スピーカーの大きさにかかわらず、臨場感のあるサウンドが楽しめます。

赤外線リモコン

リモコンで働くほとんどのオーディオ、ビデオ機器を本機のリモコンで操作できます。接続した機器を簡単な手順で登録することができます。

ビデオアップコンバージョン

本機では、入力されたコンポジットビデオ信号をSビデオ信号に変換して出力します。お使いのモニターテレビにSビデオ端子がある場合は、本機とモニターテレビをSビデオ接続ケーブルで接続していただく、コンポジットビデオ端子を接続する必要がありません。

目次

△ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

△ 安全上のご注意	2
△ はじめに	7
取扱説明書の使用方法	7
付属品	7
本機の特長	8
各部のなまえと働き	10
メインユニット	10
リモコン	11

準備編

接続のしかた	12
DVDプレーヤーの接続	13
オーディオ機器の接続	14
ビデオ機器の接続	15
デジタル機器の接続	16
ビデオ機器の接続(COMPONENT VIDEO) ...	17
スピーカーターミナルの接続	18
スピーカーの接続	19
他の部屋への接続(ROOM B)	20
PRE OUT ^{フロント} の接続	21
本体前面のAV AUX端子への接続	22
アンテナの接続	22
リモコンの準備	23
サラウンド再生の準備をする	24
スピーカーの設定をする	24

操作編

再生のしかた	28
再生をする前に	28
普通の再生	28
音の調節のしかた	29
録音(録画)のしかた	31
録音のしかた(アナログソース)	31
録画のしかた	31
録音のしかた(デジタルソース)	31
放送を聴く	32
放送を受信する	32
放送局を記憶させる	32
記憶させた放送局を受信する	33
記憶させた放送局を順に聴く(P.Call) ^{プリセットコール}	33
臨場感を楽しむ	34
サラウンドモードの種類	34
サラウンド再生	37
DVD6チャンネル	39
便利な機能	40

リモコン操作編

他の機器をリモコンで操作する	42
お手持ちの機器のセットアップコードを登録する	42
お手持ちの機器のセットアップコードを探し登録する	42
セットアップコードの確認	43
インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる	43
他の機器を操作する	43
他の機器のリモコンコードを記憶させる	44
リモコンに登録、記録した内容を全て消去するには	44
セットアップコード表	45
カセットデッキ、CDプレーヤー、MDレコーダー操作	49
テレビ、ビデオデッキ操作	50
DVDプレーヤー操作	51

その他

故障かな?と思ったら	52
△ 定格	54
保証とアフターサービス (よくお読みください)	55

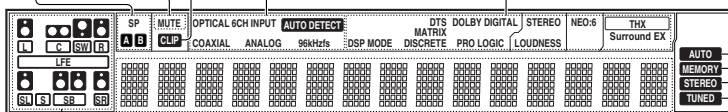
各部のなまえと働き

メインユニット

入力チャンネル表示

本機に入力される音声信号に応じて点灯します。“S”表示はサラウンド成分が1チャンネルのときに点灯します。

スピーカー表示 ミュート クリップ 入力モード表示 リッスンモード表示

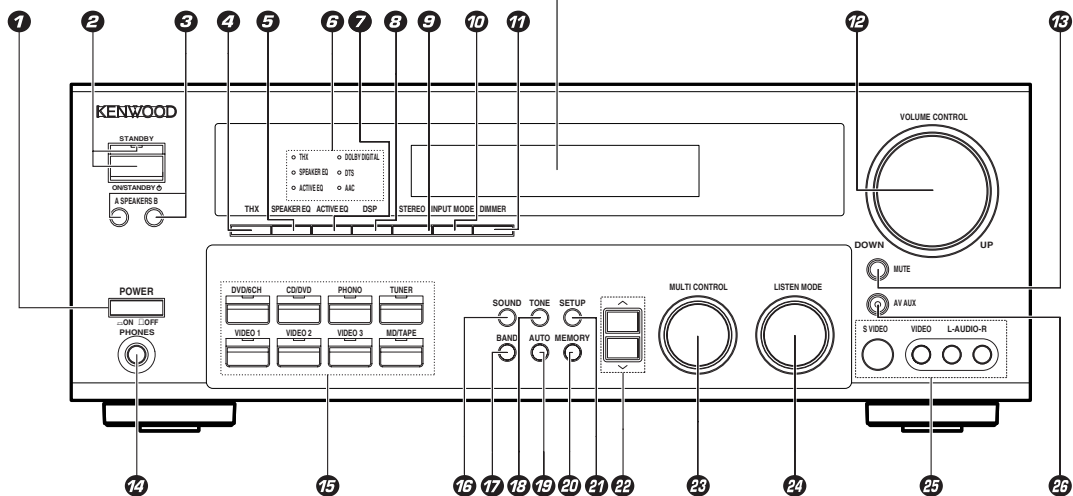


オート表示
メモリ
MEMORY (メモリー) 表示
ステレオ
STEREO (ステレオ) 表示
チューンド
TUNED (受信) 表示

入力チャンネル表示
出力チャンネル表示

周波数表示
インプットモード表示
プリセットチャンネル表示
サラウンドモード表示

ディスプレイ



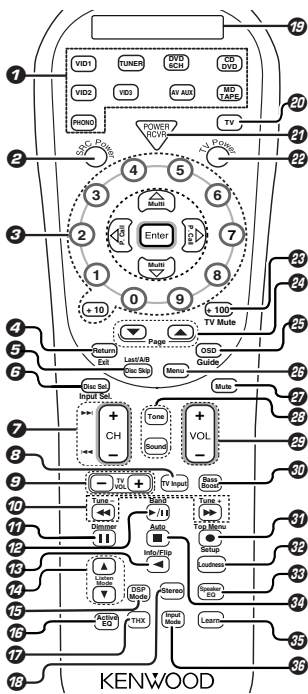
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| ① POWER オン/オフ キー
主電源のオン/オフを切り換えます。 | ② ON/STANDBY キー
主電源がオンのとき、スタンバイ状態のオン/オフを切り換えます。
STANDBY 表示
スピーカー | ③ SPEAKERS キー
スピーカーのA/Bを切り換えます。 | ④ THX キー
THXの状態を切り換えるときに使います。 | ⑤ SPEAKER EQ キー
SPEAKER EQの設定をするときに使います。 | ⑥ サラウンドインジケータ
THX インジケータ
THXモードが選ばれたときに点灯します。再生モードによってはTHXが作動しないことがあります。 | ⑦ SPEAKER EQ インジケータ
SPEAKER EQモードのときに点灯します。 | ⑧ ACTIVE EQ インジケータ
ACTIVE EQモードのときに点灯します。 | ⑨ DOLBY DIGITAL インジケータ
ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯します。 | ⑩ DTS インジケータ
DTS信号を入力しているときに点灯します。 | ⑪ AAC インジケータ
AAC信号を入力しているときに点灯します。 | ⑫ ACTIVE EQ キー
ACTIVE EQの設定をするときに使います。 | ⑬ DSP キー
DSPモードを選択するときに使います。 | ⑭ STEREO キー
リッスンモードを一時的にステレオに切り換えるときに使います。 | ⑮ INPUT MODE キー
インプットモードの設定に使います。 | ⑯ DIMMER キー
録音モードをかえます。
ディスプレイの明るさを調節します。 | ⑰ VOLUME CONTROL つまみ
ボリュームコントロール | ⑱ MUTE キー
音を一時的に消すときに使います。 | ⑲ PHONES 端子
ヘッドホンで聴くときに使います。 | ⑳ インプットセレクターキー
(DVD/6CH、CD/DVD、PHONO、TUNER、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、MD/TAPE)
入力ソースを選択します。 | ㉑ SOUND キー
音質や音場を調節したいときに使います。 | ㉒ BAND キー
放送バンドを切り換えます。 | ㉓ TONE キー
トーンを調節するときに使います。 | ㉔ AUTO キー
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。 | ㉕ MEMORY キー
放送局を登録するときに使います。 | ㉖ SETUP キー
スピーカーの設定などをするときに使います。 | ㉗ ∧/∨ キー
サウンド、セットアップまたはプリセットチャンネル機能を調節するときに使います。 | ㉘ MULTI CONTROL つまみ
いろいろな設定に使います。 | ㉙ LISTEN MODE つまみ
リッスンモードを選ぶときに使います。 | ㉚ AV AUX (S VIDEO、VIDEO、L-AUDIO-R) 端子 | ㉛ AV AUX キー
AV AUXへ入力を切り換えるときに使います。 |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------|

スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケータが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンにできます。

リモコン

メーカーセットアップコードを正しく設定しておく、ケンウッドの機器だけでなく、他社製の機器もリモコンで操作できます。 → [45]



本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をカッコ内に表記します。

- ① **インプットセクターキー**(MD/TAPE, CD/DVD, DVD/6CH, TUNER, VID 1, VID 2, VID 3, AV AUX, PHONO) → [28] - [42]
入力ソースを選択します。
リモコンに他の機器を登録したり操作するときに使います。
- ② **SRC(ソース)Power キー**
リモコンに登録した他の機器の電源のオン/オフを切り換えます。
- ③ **数字キー** → [42]
他の機器の操作に使います。
Multi Δ/▽(マルチコントロール)キー → [24]
いろいろな設定に使います。
他の機器の操作に使います。
P.Call </>(Multi </>)キー → [33]
いろいろな設定やラジオ放送の選局に使います。
Enter キー
他の機器の操作に使います。
- ④ **Return キー**
DVDの操作に使います。
Exit キー
他の機器の操作に使います。
- ⑤ **Disc Skip キー**
マルチCDプレーヤーを接続したときに、ディスクスキップキーとして使います。
- Last/A/Bキー**
他の機器の操作に使います。
ダブルカセットデッキを接続したときに、A、Bのカセット切り換えに使います。
- ⑥ **Disc Sel. キー**
他の機器の操作に使います。
- Input Sel. キー**
他の機器の操作に使います。
- ⑦ **CH +/- キー**
チャンネルを選ぶときに使います。
▶▶/||◀◀ キー
CDプレーヤー、MDレコーダーまたはDVDプレーヤーを操作するときに、スキップキーとして使います。
- ⑧ **TV Input キー**
テレビの操作をするときに使います。
- ⑨ **TV VOL +/- キー**
テレビの音量を調節するときに使います。
- ⑩ **◀◀/▶▶キー**
CDプレーヤー、MDレコーダー、DVDプレーヤー、カセットデッキまたはビデオデッキを操作するときに、サーチキーなどとして使います。
Tune +/- キー
ラジオ放送の選局に使います。
- ⑪ **|| キー**
他の機器の操作に使います。
- Dimmer キー** → [40]
ディスプレイの明るさを調節します。
- ⑫ **▶/|| キー**
CDプレーヤーまたはカセットデッキを操作するときは、再生/一時停止キーとして使います。
DVDプレーヤー、MDレコーダーまたはビデオデッキを操作するときは、再生キーとして使います。
- Band キー** → [32]
放送バンドを切り換えます。
- ⑬ **◀ キー**
カセットデッキを操作するときは、リバース再生キーとして使います。
Info/Flip キー
他の機器の操作に使います。
- ⑭ **Listen Mode ▲/▼キー** → [37]
リッスンモードを選ぶときに使います。
- ⑮ **DSP Mode キー** → [37]
DSPモードを選択するときに使います。
- ⑯ **Active EQキー** → [29]
ACTIVE EQの設定をするときに使います。
- ⑰ **THXキー** → [37]
THXの状態を切り換えるときに使います。
- ⑱ **Stereo キー** → [37]
リッスンモードを一時的にステレオに切り換えるときに使います。
- ⑲ **LCD(液晶ディスプレイ)**
- ⑳ **TV キー**
テレビを操作するときに使います。
- ㉑ **POWER RCVR(レシーバー)キー** → [24]
本機の電源のオン/オフを切り換えます。
- ㉒ **TV Power キー**
テレビの電源のオン/オフを切り換えます。
- ㉓ **+100 キー**
MDレコーダーを操作するときは、曲の選択に使います。
- TV Mute キー**
テレビの音を一時的に消すときに使います。
- ㉔ **Page ▲/▼キー**
DVDプレーヤーの操作に使います。
- ㉕ **OSD(オンスクリーン)キー**
DVDの操作に使います。
- Guide キー**
他の機器の操作に使います。
- ㉖ **Menu キー**
他の機器の操作に使います。
- ㉗ **Mute キー** → [29]
音を一時的に消すときに使います。
- ㉘ **Tone キー** → [29]
トーンを調節するときに使います。
Sound キー → [40]
音質や音場を調節したいときに使います。
- ㉙ **VOL +/-キー** → [28]
本機の音量を調節します。
- ㉚ **Bass Boost キー** → [29]
低音域を調節できる最大値に設定します。
- ㉛ **● キー**
MDレコーダー、カセットデッキまたはビデオデッキを操作するときは、録音キーとして使います。ビデオデッキを操作するときは、続けて2回押します。
- Top Menu キー**
DVDの操作に使います。
- Setup キー** → [24]
スピーカーの設定などをするときに使います。
- ㉜ **Loudness キー** → [29]
低音域を上げるときに使います。
- ㉝ **Speaker EQ キー** → [29]
SPEAKER EQの設定をするときに使います。
- ㉞ **■ キー**
CDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDプレーヤー、カセットデッキまたはビデオデッキを操作するときは、停止キーとして使います。
Auto キー → [32]
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。
- ㉟ **Learn キー** → [42] - [44]
他の機器のリモコンの操作を記憶させるときに使います。
- ㊱ **Input Mode キー** → [12]
インプットモードの設定に使います。

⚠ 注意 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は13ページ～22ページをご覧ください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。 - [53]

⚠ 警告 ACコンセント

背面のACコンセントに接続する装置の消費電力の合計が指定値を超えないようにしてください。火災の原因になります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

ご注意

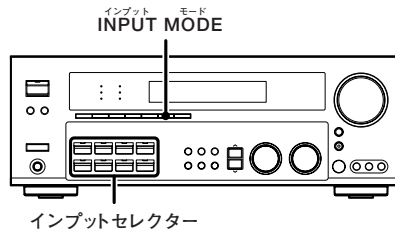
1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気が発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子(R側に接続)と白い端子(L側に接続)のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

インプットモードの設定

CD/DVD、^{ビデオ}VIDEO 2、^{ビデオ}VIDEO 3、DVD/6CHの入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。工場出荷時におけるCD/DVD、DVD/6CH、^{ビデオ}VIDEO 2および^{ビデオ}VIDEO 3のオーディオ信号インプットモードはフルオートモードに設定してあります。接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。



① インプットセレクターキーでCD/DVD、^{ビデオ}VIDEO 2、^{ビデオ}VIDEO 3またはDVD/6CHを選ぶ。

② ^{インプット} ^{モード} INPUT MODEキーを押す。

押すたびに切り換わります。

DTSモードのとき

- ① ^{フル} ^{オート} FULL AUTO (デジタル入力、アナログ入力)
- ② ^{デジタル} ^{マニュアル} DIGITAL MANUAL (デジタル入力)

CD/DVD、^{ビデオ}VIDEO 2、^{ビデオ}VIDEO 3またはDVD/6CHのとき

- ① ^{フル} ^{オート} FULL AUTO (デジタル入力、アナログ入力)
- ② ^{デジタル} ^{マニュアル} DIGITAL MANUAL (デジタル入力)
- ③ ^{デジタル} ^{インプット} 6CH INPUT* (DVD/6CH入力)
- ④ ^{アナログ} ANALOG (アナログ入力)

* インプットセレクターキーでDVD/6CHを選んだときに選択ができます。

デジタル入力：

DVD、CD、LDなどに記録されているデジタル音声信号を再生したいときに選びます。

アナログ入力：

カセットテープ、ビデオテープ、レコードなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

オートディテクト：

^{フル} ^{オート} ^{ディテクト} FULL AUTOモード(ディスプレイ内の^{オート} ^{ディテクト}表示点灯)ではデジタル入力信号を自動的に検出し、再生します。また、デジタルソース再生時には入力信号の種類(ドルビーデジタル、DTS、AAC、PCMなど)とスピーカーの設定に合わせてリスンモードを自動的に選びます。デジタル信号が検出された場合は入力信号の経路に対応して^{デジタル} ^{コアキシャル} OPTICALまたは^{アナログ} ^{コアキシャル} COAXIAL表示が点灯します。アナログ信号が入力された場合はANALOG表示が点灯します。

現在選んでいるリスンモードを継続したい場合は、^{インプット} ^{モード} INPUT MODEキーで^{デジタル} ^{マニュアル} "DIGITAL MANUAL" (マニュアルサウンド)を選んでください。^{デジタル} ^{マニュアル} "DIGITAL MANUAL"に設定した場合、リスンモードとドルビーデジタルソースの組み合わせによっては、設定したリスンモードが自動的に変更されることがあります。

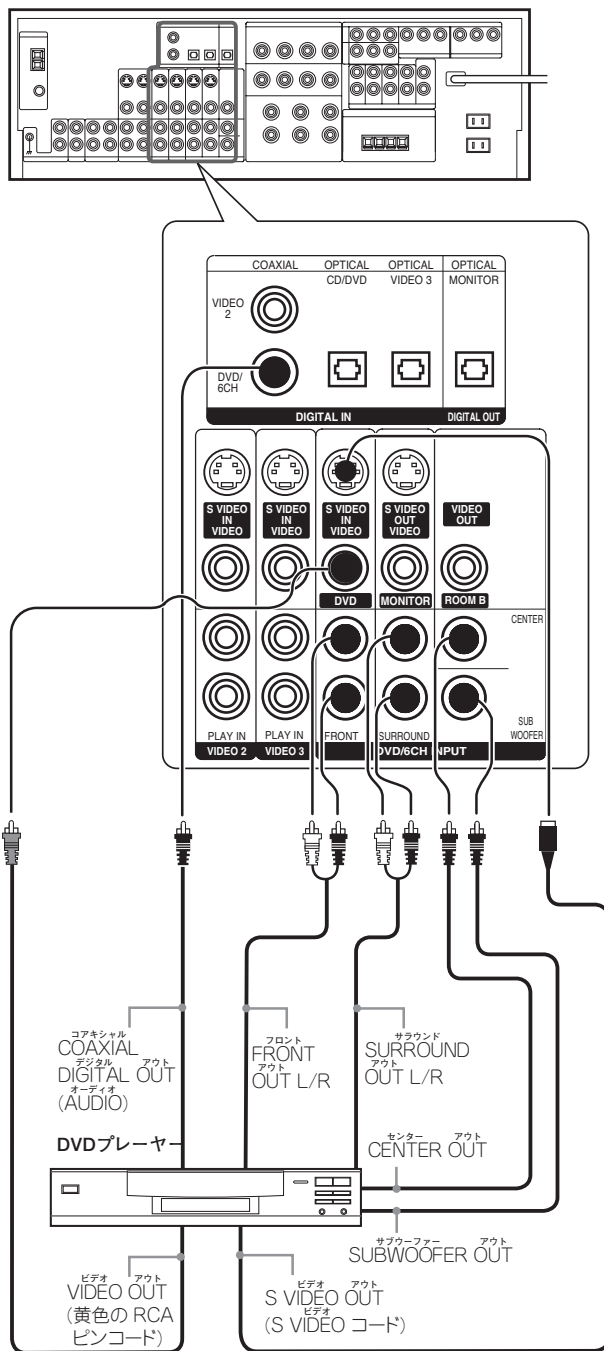
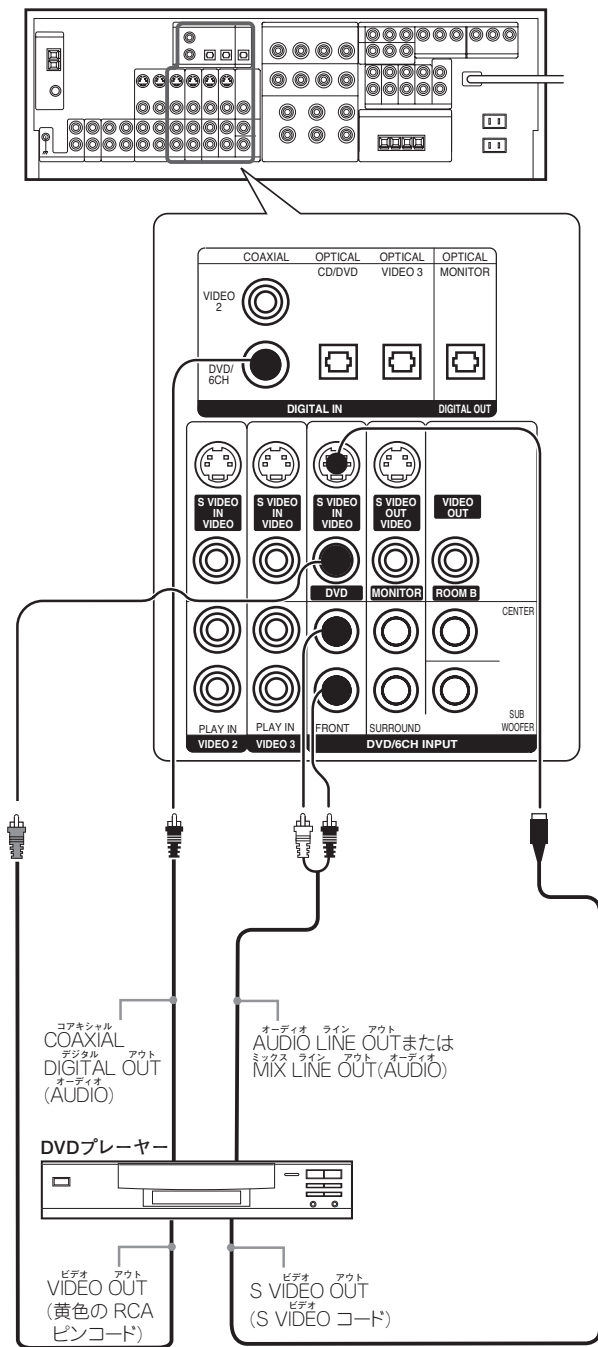
INPUT MODEキーをすばやく押すと、音声が届かなくなることがあります。その場合再度INPUT MODEキーを押し直してください。

DVDプレーヤーの接続

デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 → [12]

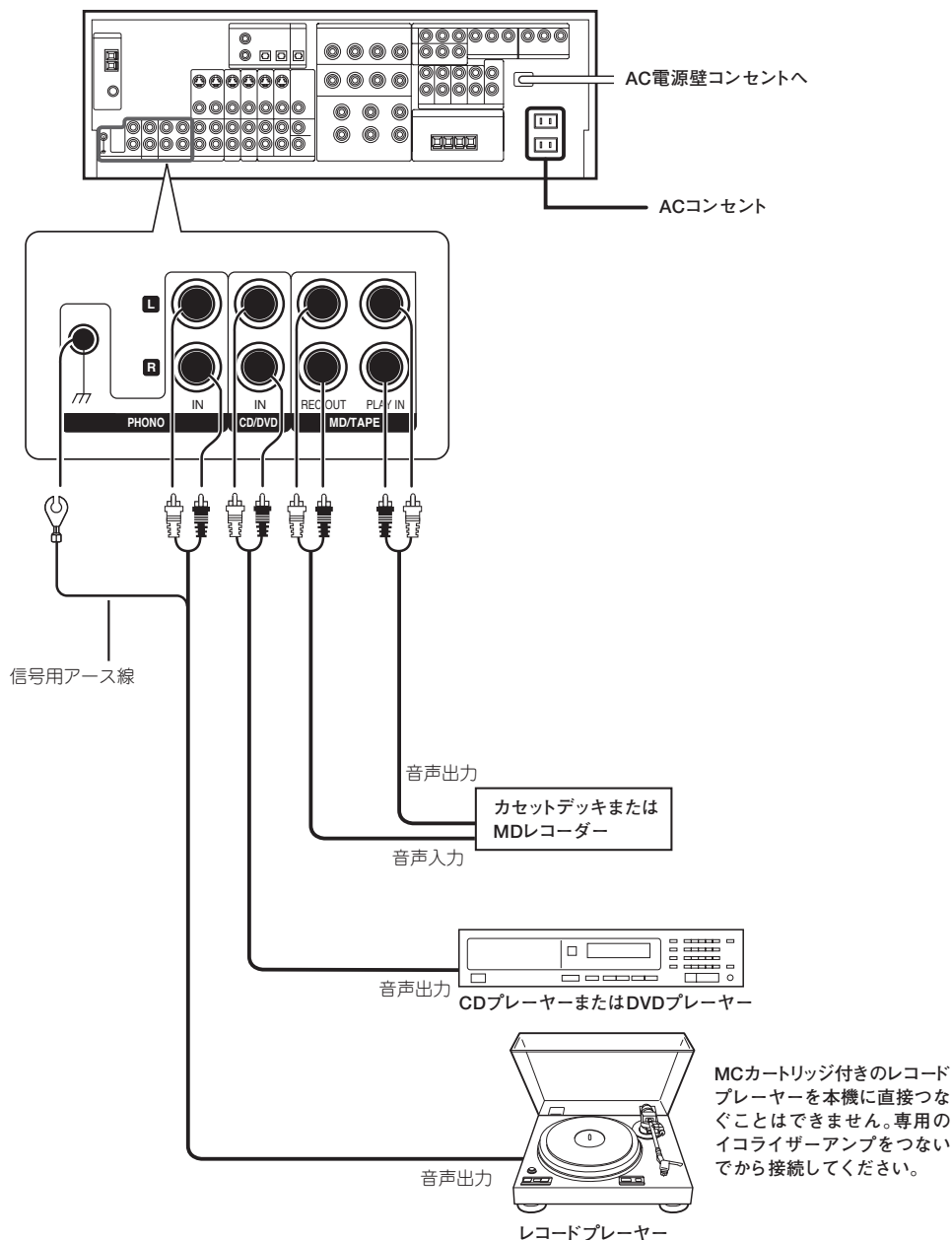
DVDプレーヤーの接続(6チャンネル入力)

DVDプレーヤーにアナログのマルチチャンネル出力がある場合は、**DVD/6CH INPUT**端子に接続しDVDプレーヤーのデコーダーを使用してマルチチャンネル再生をすることができます。インプットモードの設定は“**6CH INPUT**”を選んでください。 → [12]
DVDプレーヤーの他に市販のマルチチャンネルデコーダーを接続することもできます。



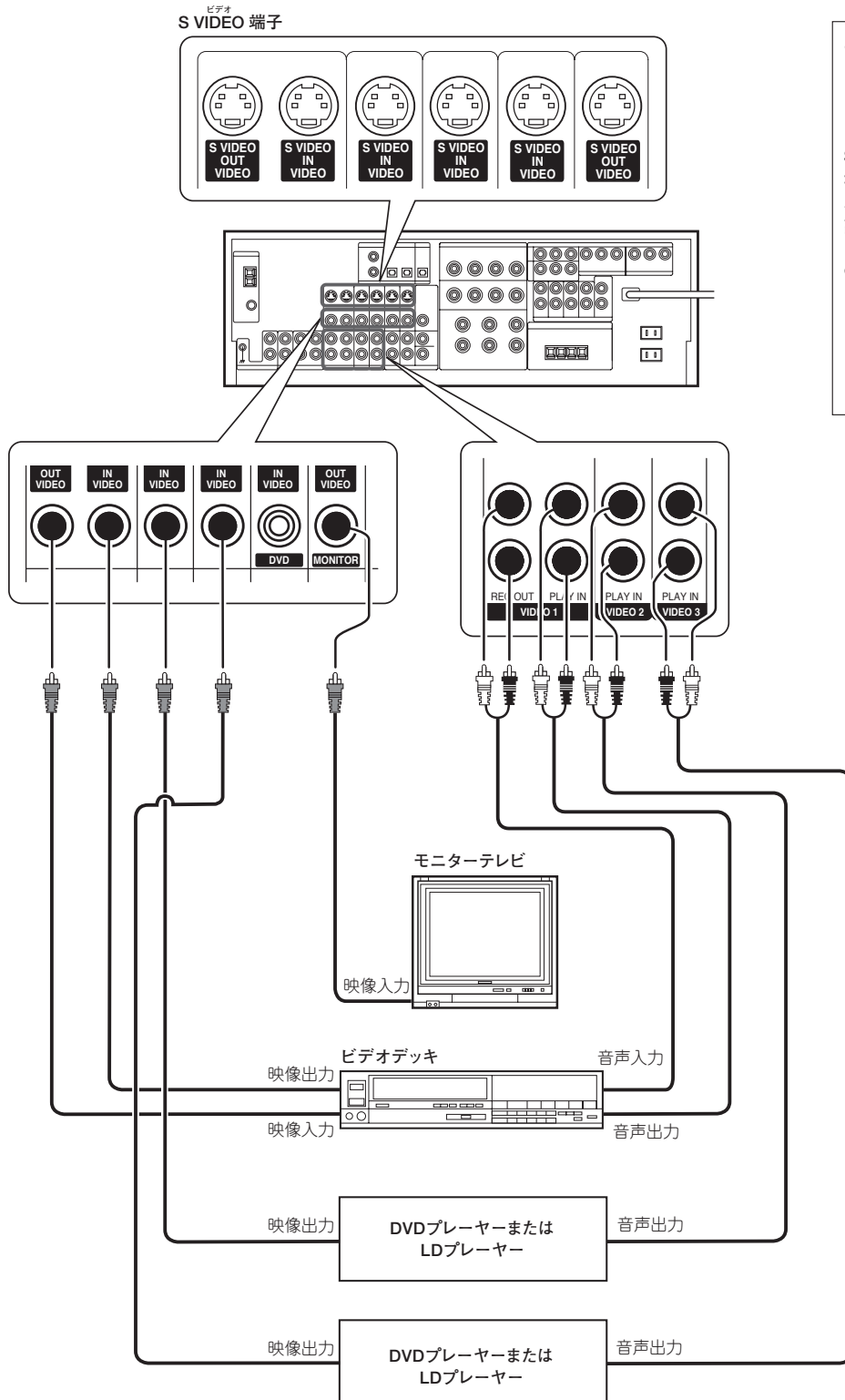
- ドルビーデジタル、DTSなどマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。
- ここで接続したDVDプレーヤーを再生するときは、インプットセレクター“DVD/6CH”を選んでください。 → [28]
- DVDプレーヤーにコンポーネント映像出力がある場合は、**COMPONENT VIDEO DVD IN**端子に接続することができます。 → [17]
- 映像入力端子は、インプットセレクター“DVD/6CH”と“CD/DVD”の共用端子になっています。

オーディオ機器の接続



- CD/DVD端子に映像機器を接続する場合は、機器の映像出力を本機の映像入力端子“DVD”に接続してください。機器にコンポーネント映像出力がある場合は、COMPONENT VIDEO DVD IN端子に接続することができます。 - [17]
- これらの端子に接続した機器を再生するときは、インプットセレクター“CD/DVD”を選んでください。 - [29]
- これらの映像入力端子は、インプットセレクター“DVD/6CH”と“CD/DVD”の共用端子になっています。
- この端子(カマークの端子)はアナログプレーヤー等を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

ビデオ機器の接続

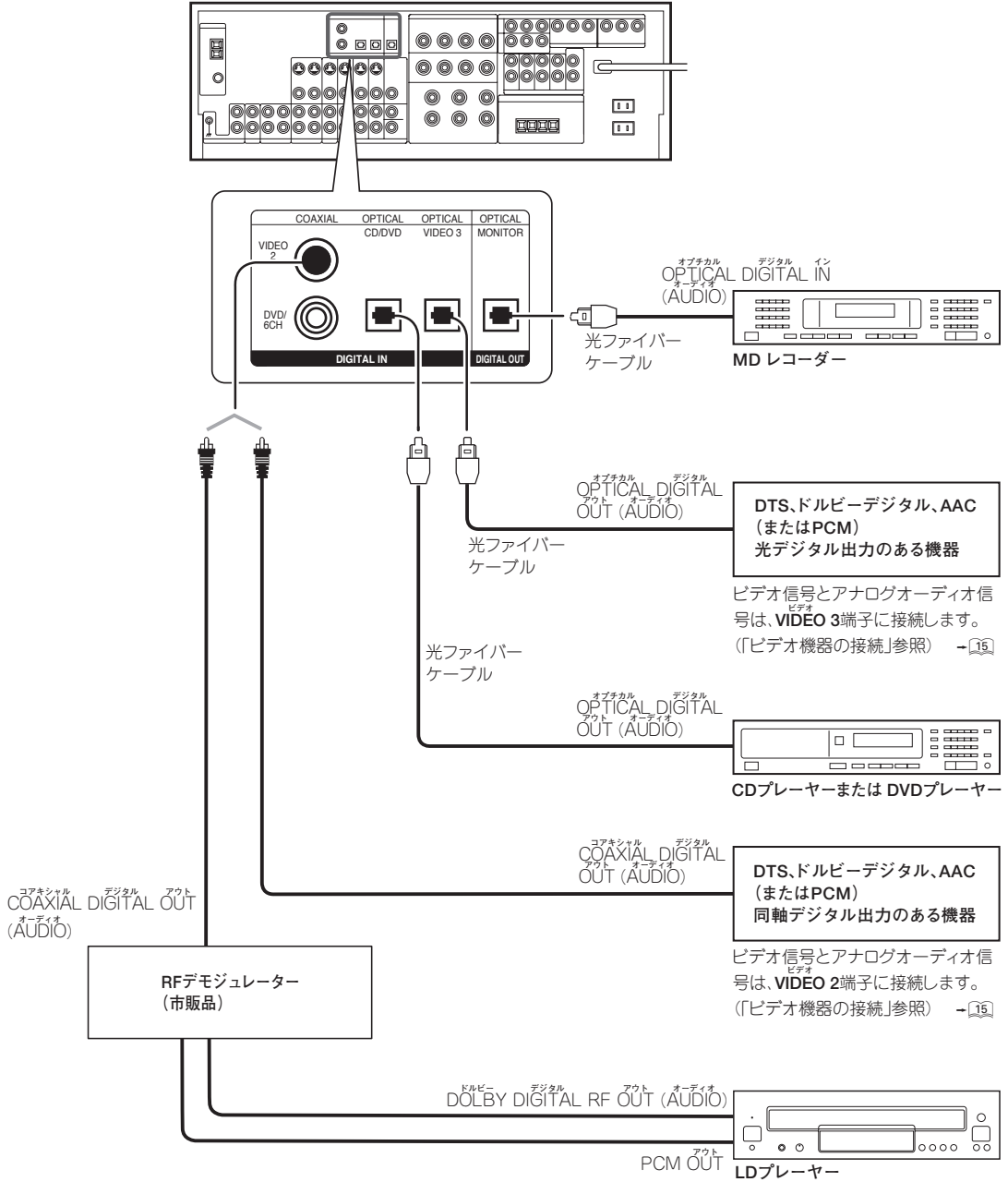


デジタル音声出力のあるビデオ機器をお持ちの方はビデオビデオ VIDEO 2またはVIDEO 3端子に接続してください。

デジタル機器の接続

デジタル入力端子はドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM(CDなど)標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。

デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 → [12]



DTS、ドルビーデジタル、AAC (またはPCM) 光デジタル出力のある機器

ビデオ信号とアナログオーディオ信号は、**VIDEO 3**端子に接続します。
〔ビデオ機器の接続〕参照 → [15]

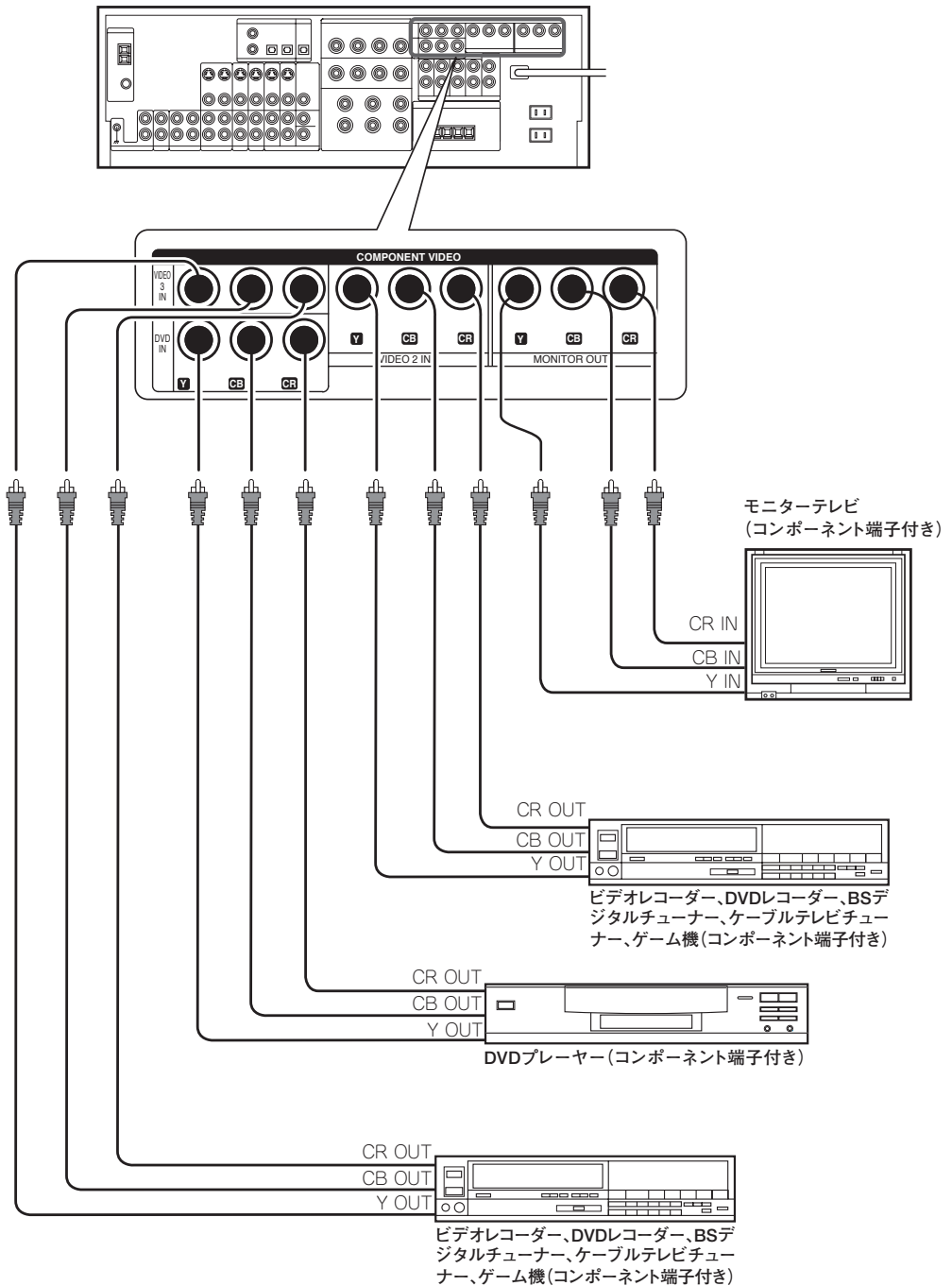
DTS、ドルビーデジタル、AAC (またはPCM) 同軸デジタル出力のある機器

ビデオ信号とアナログオーディオ信号は、**VIDEO 2**端子に接続します。
〔ビデオ機器の接続〕参照 → [15]

DIGITAL RF OUT端子のあるLDプレーヤーを接続するには、LDプレーヤーをRFデモジュレーター(市販品)に接続します。それから、デモジュレーターのDIGITAL OUT端子を本機のDIGITAL IN端子に接続します。ビデオ信号とアナログオーディオ信号をVIDEO 2端子またはVIDEO 3端子に接続します。〔ビデオ機器の接続〕参照

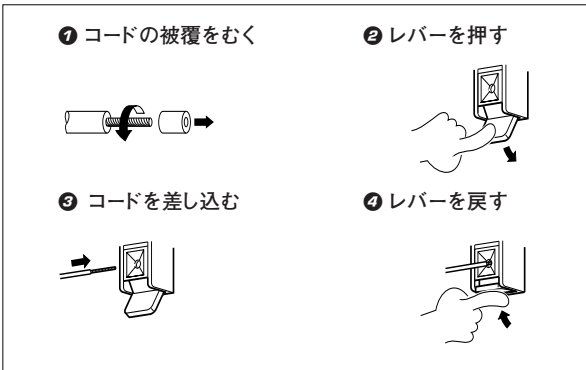
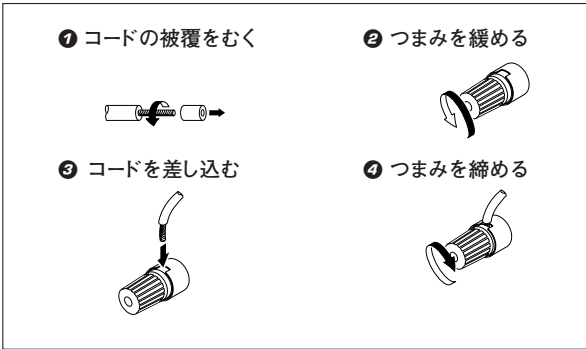
ビデオ機器の接続 (COMPONENT VIDEO)

COMPONENT端子を使用してレシーバーとビデオ装置の接続をした場合はS VIDEO端子を使用して接続した場合よりも高品質の画像が得られます。



COMPONENT端子を使ってテレビを接続する場合は、他のすべての機器もCOMPONENT端子を使って接続してください。

スピーカーターミナルの接続

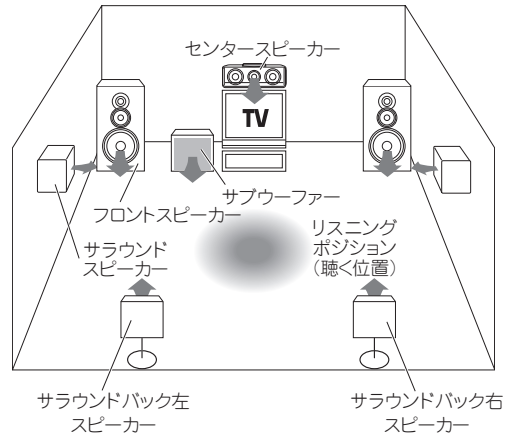


- スピーカーコードの+と-は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー	6~16 Ω
センタースピーカー	6~16 Ω
サラウンドスピーカー	6~16 Ω
サラウンドバックスピーカー	6~16 Ω

サラウンドスピーカーの設置のしかた



フロントスピーカー : 前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。

センタースピーカー : 前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

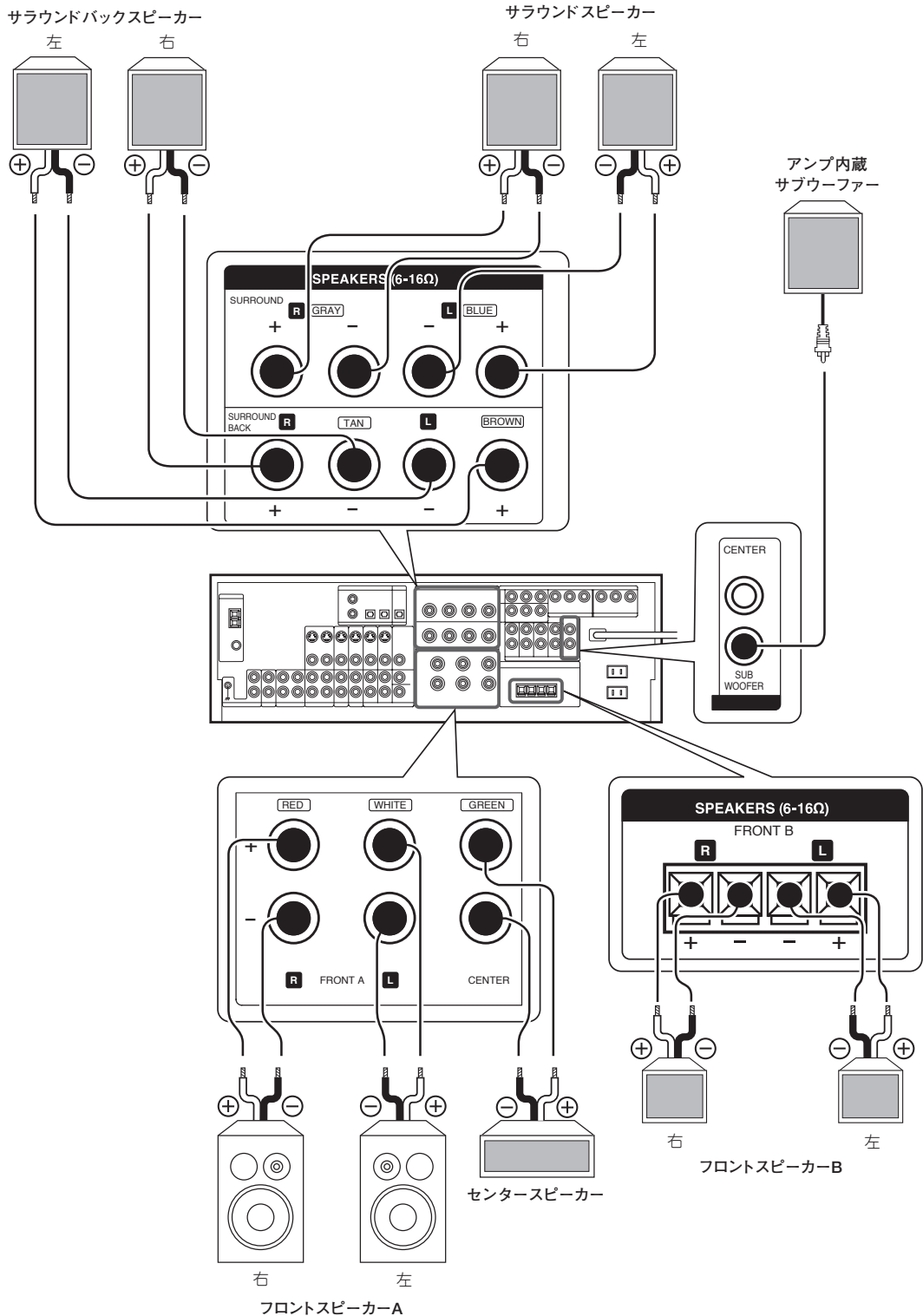
サラウンドスピーカー : 座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

サブウーファー : 重低音を迫力ある音で再現します。

サラウンドバックスピーカー : サラウンドバックスピーカーは視聴位置の後ろでサイドサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。 - [24]

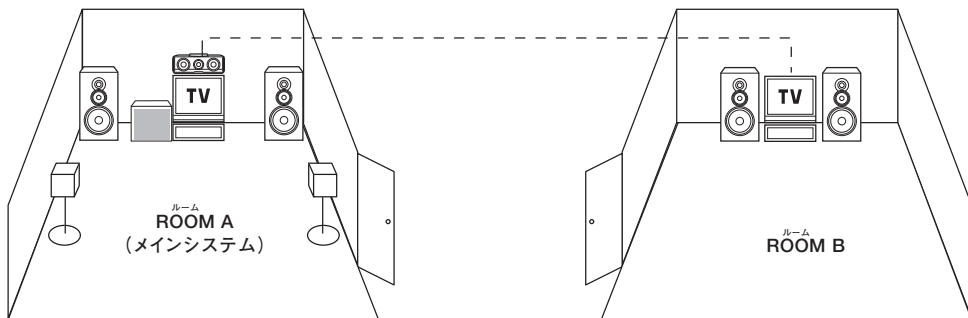
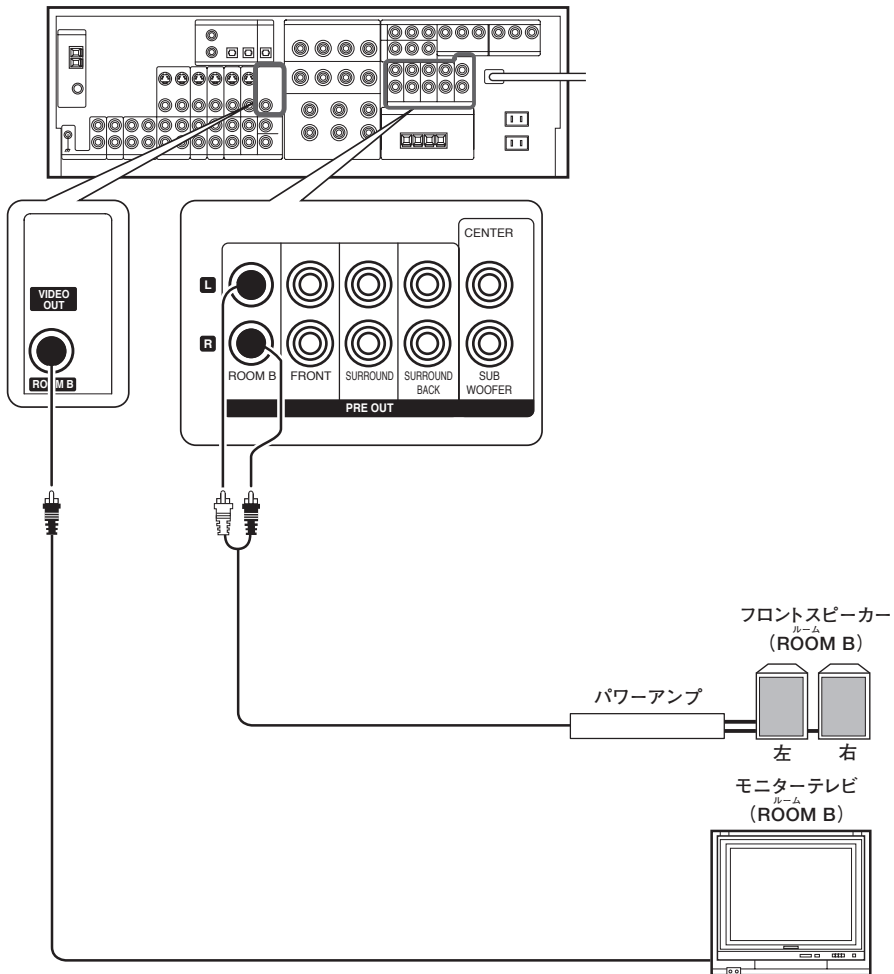
スピーカーの接続



- 各スピーカーが正しく接続されているかどうか、テストトーンを出力して確認してください。
- 各スピーカーの音量レベルを調整する。 - [25]
- 本機はサラウンドバックスピーカーを2本で使用することを前提として設計しております。このため、サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、サラウンドバックLまたはRのどちらかに接続し、テストトーン調整時に接続したチャンネルの音量レベルをさらに3dB上げてください。 - [25]
その場合にリスンモードでDolby PRO LOGICIIxを選択したときは、接続した方のチャンネル成分しか出力されません。

他の部屋への接続(Rルーム B)

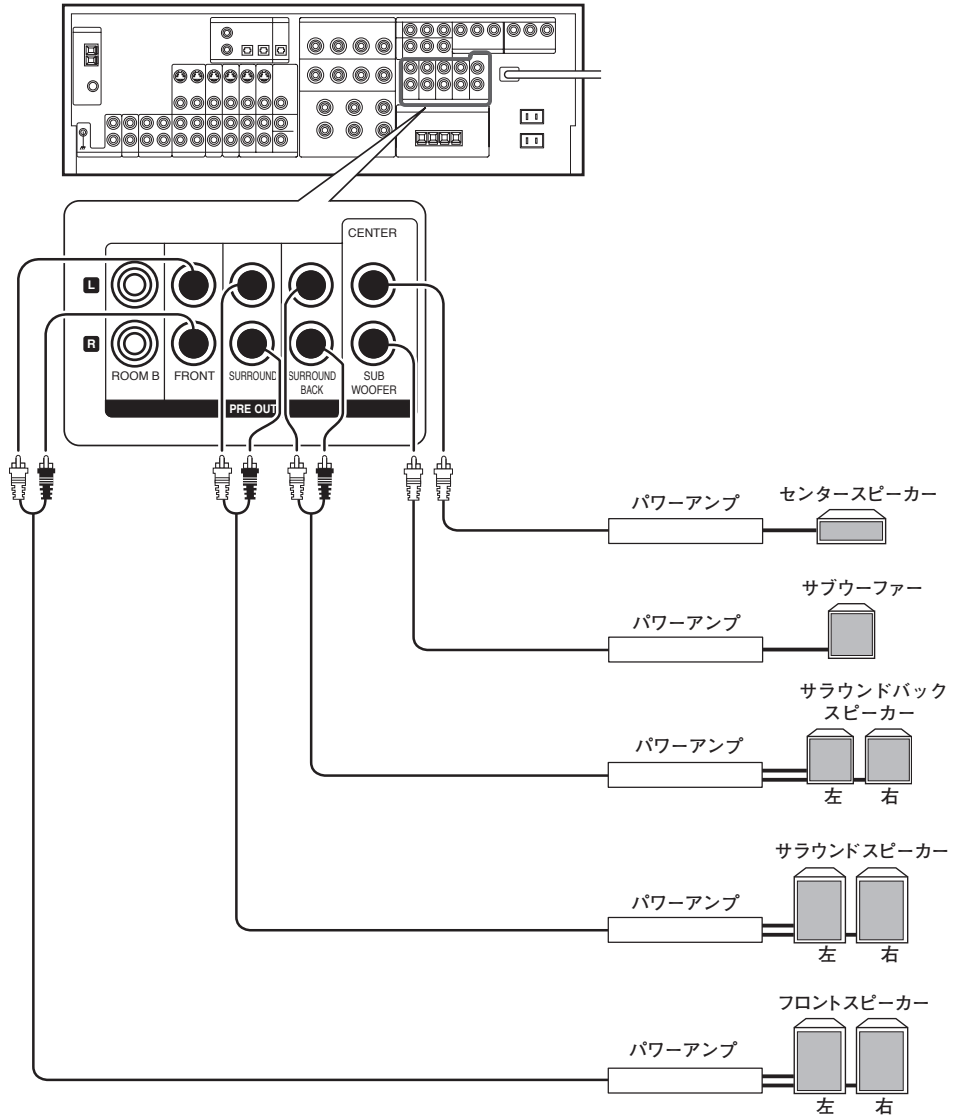
他の部屋(Rルーム B)のテレビまたはスピーカーを本機に接続することができます。



ROOM B の プリ アウト 端子からはフロントスピーカーAと同じ音が出ます。他の部屋 (ROOM B) でお楽しみいただくときは、リスンモードを ステレオ STEREO モードに切り換えてください。

PRE OUT の接続

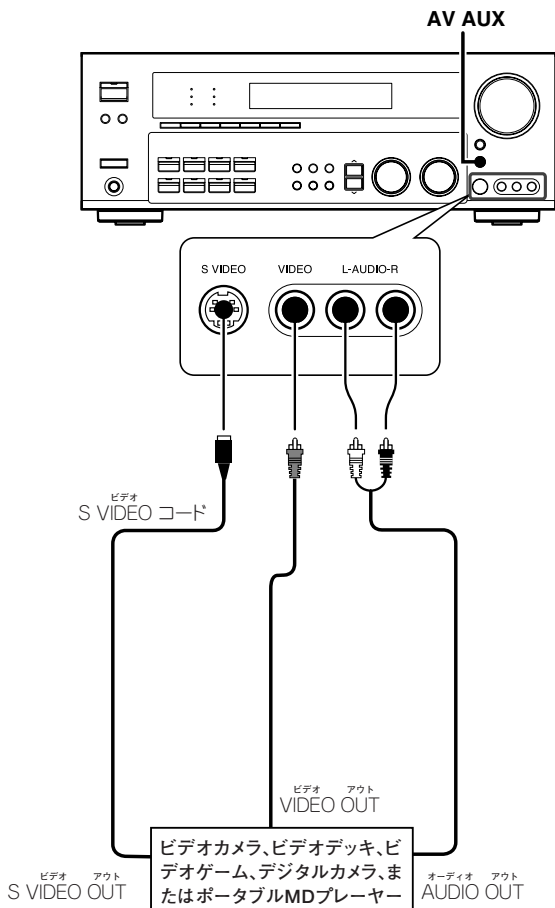
本機にはPRE OUT端子が付いています。これらは色々な目的に使用することができますが、下図に例が示されているように追加のパワーアンプが必要となります。



- スピーカーコードをPRE OUT端子に接続しても、スピーカーからは音は出ません。
- PRE OUT端子を使用するときは、スピーカーシステムの選択は、スピーカーAをONにしてください。 - [29]
- 本機はサラウンドバックスピーカーを2本で使用することを前提として設計しております。このため、サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、サラウンドバックLまたはRのどちらかに接続し、テストトーン調整時に接続したチャンネルの音量レベルをさらに3dB上げてください。 - [25]
その場合にリスンモードでDolby PRO LOGICIIxを選択したときは、接続した方のチャンネル成分しか出力されません。

本体前面のAV AUX端子への接続

ポータブルビデオカメラ機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるAV AUX端子に接続します。ポータブルビデオカメラからダビングする時などに使用すると便利です。



アンテナの接続

アンテナを接続しないとAM、FM放送を受信できません。下記にしたがって正しく接続してください。

⚠ 注意 屋外アンテナ設置上のご注意

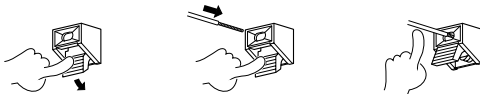
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

AMループアンテナの接続

付属のアンテナは本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

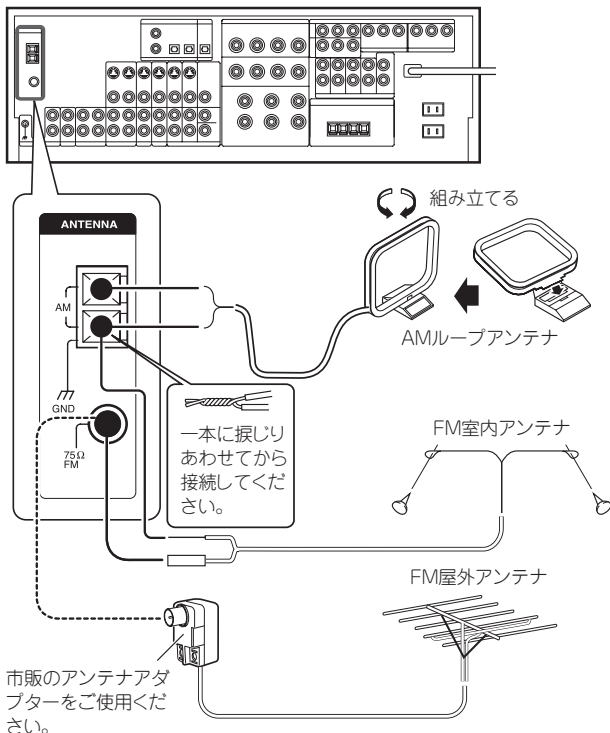
AMアンテナ端子の接続のしかた

- ① レバーを押す ② コードを差し込む ③ レバーを戻す



FM室内アンテナの接続

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続する場合は、室内用アンテナは取り外してください。



FM屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω 端子に接続します。

- AV AUX端子に接続されたソースを選択する場合は、AV AUXキーを押してください。 - 28
- ポータブルビデオカメラのほかに、ポータブルMDプレーヤーなどのオーディオ機器も接続することができます。その場合は、オーディオ L/R端子のみ接続してください。
- S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

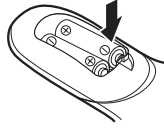
リモコンの準備

電池を入れる

① ふたを開ける



② 電池を入れる



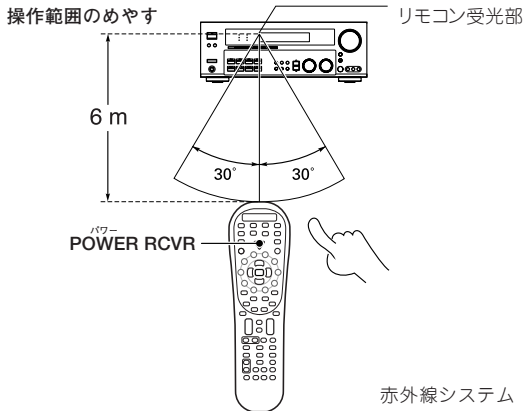
③ ふたを閉める



- 単3乾電池 (R6) 2本を極性マークにしたがって入れる。

操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンのPOWER RCVRキーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。



- リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

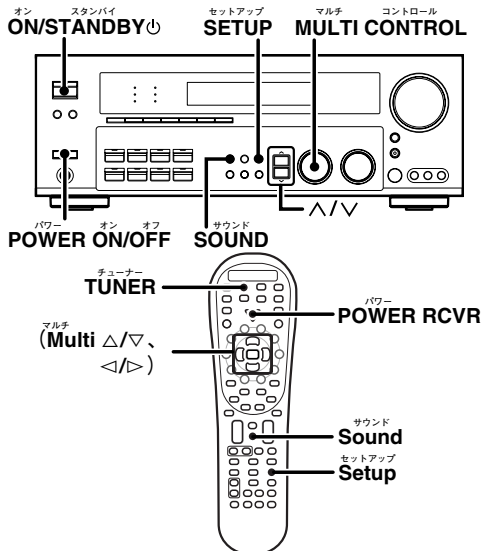
ご注意

1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯 (インバーター方式など) の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

サラウンド再生の準備をする

スピーカーの設定をする

接続したスピーカー(サブウーファー、フロント、センター、サラウンド)に応じて各種設定をします。



1 本機のPOWER ON/OFF^{オン}またはON/STANDBY^{オフ}キーまたは、リモコンのPOWER RCVR^{オン}キーを押して本機の電源をオンにする。

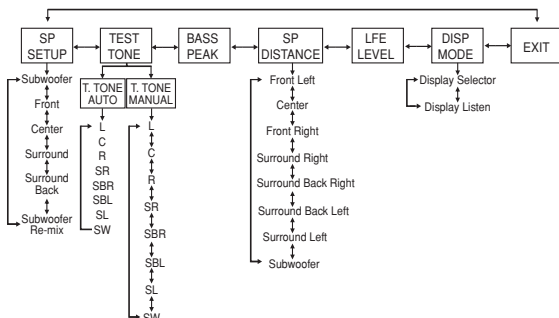
2 リモコンで操作するときは、リモコンのTUNER^{チューナー}キーを3秒以上押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。

3 SETUP^{セットアップ}キーを押して、SETUP^{セットアップ}モードにする。

△/▽キーまたは、Multi^{マルチ} (</>) キーを使うと次の順で切り換わります。

- ① SP SETUP^{スピーカーセットアップ}
- ② TEST TONE^{テストトーン}
- ③ BASS PEAK^{バスピーク}
- ④ SP DISTANCE^{スピーカーディスタンス}
- ⑤ LFE LEVEL^{LFEレベル}
- ⑥ DISP MODE^{ディスプレイモード}
- ⑦ EXIT

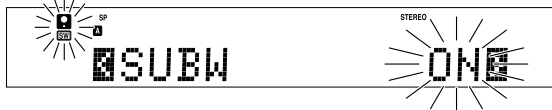
スピーカー設定の手順、は以下のようになります。



4 接続しているスピーカーを選ぶ。

THXが承認したスピーカーを接続しているときは、NML/THXに設定します。

1 SP SETUP^{スピーカーセットアップ}を選択してSETUP^{セットアップ}キーを押すと、サブウーファー設定表示“SUBW ON”になります。



2 MULTI CONTROL^{マルチ}つまみまたは、Multi^{マルチ} (△/▽) キーを使ってサブウーファーの設定をする。

- ① SUBW ON^{オン} : サブウーファーの設定をONにするとき。
- ② SUBW OFF^{オフ} : サブウーファーの設定をOFFにするとき。

- 初期設定は“SUBW ON”になっています。
- “SUBW OFF”を選び、手順②で△キーを押して確定した場合、フロントスピーカーは自動的に“FRNT LARGE”(ラージ)に設定され、手順③に進みます。
- SW(サブウーファー)をOFFからONに設定後、SB/SW AMP設定画面が表示されサラウンドバックまたはサブウーファー端子からの出力を設定するためSW、SBまたはOFFが選択できます。

3 △キーまたは、Multi^{マルチ} (>) キーを押して確定させる。
● フロントスピーカーの設定表示、“FRNT”になります。



4 MULTI CONTROL^{マルチ}つまみまたは、Multi^{マルチ} (△/▽) キーを使ってフロントスピーカーの設定をする。

- ① FRNT NML/THX(ノーマル) : 普通のフロントスピーカーのとき。
- ② FRNT LARGE(ラージ) : 大きめのフロントスピーカーのとき。

- サブウーファーの設定をONにして、フロントスピーカーの設定を“LARGE”にしたときは、ステレオソースを再生したときにリスンモードの設定によっては、低音はフロントスピーカーで再生し、サブウーファーから音が出ない場合があります。このような場合は、手順②のサブウーファーリミックスの設定をONにするとサブウーファーにも低音の信号が送られます。

5 △キーまたは、Multi^{マルチ} (>) キーを押して確定させる。
● センタースピーカーの設定表示、“CNTR”になります。

6 MULTI CONTROL^{マルチ}つまみまたは、Multi^{マルチ} (△/▽) キーを使ってセンタースピーカーの設定をする。

- フロントスピーカーを“LARGE”に設定したとき
- ① CNTR NML/THX(ノーマル) : 普通のセンタースピーカーのとき。
 - ② CNTR LARGE(ラージ) : 大きめのセンタースピーカーのとき。
 - ③ CNTR OFF^{オフ} : センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

- フロントスピーカーを“NML/THX”に設定したとき
- ① CNTR NML/THX : 普通のセンタースピーカーのとき。
 - ② CNTR OFF^{オフ} : センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

- ⑦ **▲**キーまたは、**Multi** (▷) キーを押して確定させる。
 ● サラウンドスピーカーの設定表示、“SURR”になります。

- ⑧ **MULTI CONTROL**つまみまたは、**Multi** (△/▽) キーを使ってサラウンドスピーカーの設定をする。

センタースピーカーを“**LARGE**”に設定したとき

- ① **SURR NML/THX** (ノーマル) : 普通のサラウンドスピーカーのとき。
 ② **SURR LARGE** (ラージ) : 大きめのサラウンドスピーカーのとき。
 ③ **SURR OFF** : サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

センタースピーカーを“**LARGE**”以外に設定したとき

- ① **SURR NML/THX** : 普通のサラウンドスピーカーのとき。
 ② **SURR OFF** : サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

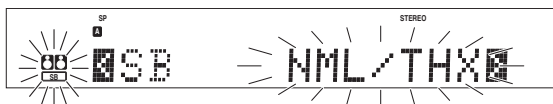
● “SURR OFF”を選び、手順④で▲キーを押して確定した場合、手順⑧に進みます。ただし、サブウーファーの設定がOFFのときは**SETUP**キーを押してスピーカーのセットアップを終了し、手順④の各スピーカーの音量レベルを調整します。

- ⑨ **▲**キーまたは、**Multi** (▷) キーを押して確定させる。
 ● サラウンドバックスピーカーの設定表示、“SB”になります。

- ⑩ **MULTI CONTROL**つまみまたは、**Multi** (△/▽) キーを使ってサラウンドバックスピーカーの設定をする。

サラウンドスピーカーを“**LARGE**”に設定したとき

- ① **SB NML/THX** (ノーマル) : 普通のサラウンドバックスピーカーのとき。
 ② **SB LARGE** (ラージ) : 大きめのサラウンドバックスピーカーのとき。
 ③ **SB OFF** : サラウンドバックスピーカーの設定をOFFにするとき。



サラウンドスピーカーを“**NML/THX**”に設定したとき

- ① **SB NML/THX** : 普通のサラウンドバックスピーカーのとき。
 ② **SB OFF** : サラウンドバックスピーカーの設定をOFFにするとき。

- ⑪ **▲**キーまたは、**Multi** (▷) キーを押して確定させる。
 ● サブウーファーリミックスの設定表示、“SW RE-MIX”になります。
 ● サブウーファーの設定がOFFのときは、サブウーファーリミックスは設定できません。

- ⑫ **MULTI CONTROL**つまみまたは、**Multi** (△/▽) キーを使ってサブウーファーリミックスの設定をする。

SW RE-MIXをONにすると、スピーカーの設定に応じてサブウーファーに他のチャンネルの低音を付加したり、サブウーファーで再生する低音を他のチャンネルに付加して、低音の量感を増します。

- ① **SW RE-MIX ON** : サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
 ② **SW RE-MIX OFF** : サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

- ⑬ **SETUP**キーを押すとメインの設定画面に戻ります。

5 各スピーカーの音量レベルを調節する。

実際に聴く位置で、市販のポータブルSPL (音圧レベル)メーターを使い、メータの読み取り単位を“C”に設定し、腕をいっぱい伸ばした状態でノイズレベルの読みが75dBになるように各チャンネルの音量レベルを調節します。SPLメーターがない場合は音量レベルを0dBから調整し、各スピーカーからのレベルがほぼ同じになりますようにします。

- 手順④で選ばれたスピーカーで、調節が必要なチャンネルのみ表示されます。

TEST TONEは大きな音が出力されますのでご注意ください。

- ① **▲/▼**キーまたは、**Multi** (◁/▷) キーを使って**TEST TONE**を選び、**SETUP**キーを押す。

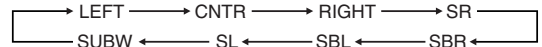
- ② **MULTI CONTROL**つまみまたは、**Multi** (△/▽) キーを使って**AUTO**、または**MANUAL TEST TONE**を選択する。

- ① **T.TONE AUTO**
 ② **T.TONE MANUAL**

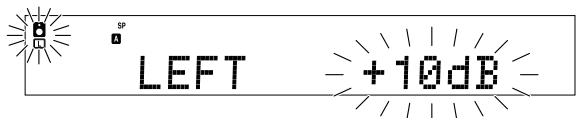
SETUPキーをもう一度押すと、**TEST TONE**が始まります。

調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときに**MULTI CONTROL**つまみまたは、**Multi** (△/▽) キーを使って音量レベルを調節する。

AUTOを選択すると最初に左フロントスピーカーから2.5秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーから2秒間ずつテストトーンが聞こえます。



テストトーン出力中のチャンネルが点灯します。



- 再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。 →④⑩
 ● スピーカー設定をOFFにすると、設定していたスピーカーレベルはリセットされます。

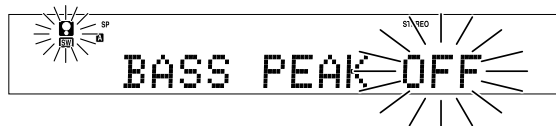
MANUALを選択した場合、スピーカーチャンネルを選ぶごとに▲/▼キーまたは、**Multi** (◁/▷) キーを押します。

- ③ **SETUP**キーをもう一度押す。
 ● テストトーンが止まり、メインの設定画面に戻ります。

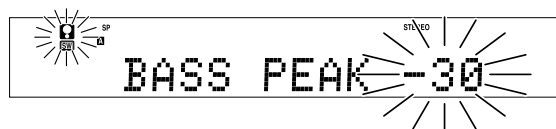
6 バスピーク(BASS PEAK)レベルの調整。

サブウーファースピーカーを強いバス(低音)出力によるダメージから守るため、バス出力に制限をかけることができます。制限をかけた後はボリュームを最高に上げててもバス出力は制限値を越えません。サブウーファースピーカーがOFFの場合はこの制限は左右のフロントスピーカー出力に加えられます。

- ① 上/下キーまたは、Multi(</>) キーを使ってBASS PEAKを選び、SETUPキーを押す。



- ② MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(Δ/▽) キーを使って制限値を-30dBから徐々に上げ、テスト音が歪み始めるところで設定する。
- テスト音は、MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(Δ/▽) キーを操作すると出ます。
 - テスト音は、サブウーファアの再生限界を確認するために大きな音量で再生されます。
 - 調整可能範囲は-30dB~0dBそしてOFFです。



- ③ SETUPキーをもう一度押して確定させる。

7 スピーカーまでの距離を入力する。

- 手順4で選ばれたスピーカーで、調節が必要なチャンネルのみ表示されます。

- ① 上/下キーまたは、Multi(</>) キーを使って設定メニューのSP DISTANCEを選び、SETUPキーを押す。

- ② リスニングポジション(聴く位置)から各スピーカーまでの距離をはかる。

メモしておきましょう。

フロント左スピーカーまで(L)	_____	メートル
センタースピーカーまで(C)	_____	メートル
フロント右スピーカーまで(R)	_____	メートル
サラウンド右スピーカーまで(SR)	_____	メートル
サラウンドバック右スピーカーまで(SBR)	_____	メートル
サラウンドバック左スピーカーまで(SBL)	_____	メートル
サラウンド左スピーカーまで(SL)	_____	メートル
サブウーファーまで(SW)	_____	メートル

- ③ 上/下キーまたは、Multi(</>) キーを使ってスピーカーを選び、MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(Δ/▽) キーを使ってフロントスピーカーからの距離を設定する。

調整するスピーカーが点滅します。



- 0.3m~9.0mまで、0.3mごとに調節できます。

- ④ 手順③を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。

- ⑤ SETUPキーをもう一度押すと、メインの設定画面に戻ります。
- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているかを確認してください。

8 LFEレベルの調整。

- ① 上/下キーまたは、Multi(</>) キーを使ってLFE LEVELを選び、SETUPキーを押す。



- LFE レベルは 0dB から-10dBの範囲で1dBごとに調整できます。

- ③ SETUPキーをもう一度押すと、メインの設定画面に戻ります。

9 ディスプレイモードを選ぶ。

- ① 上/下キーまたは、Multi(</>) キーを使って DISP MODE を選び、SETUPキーを押す。

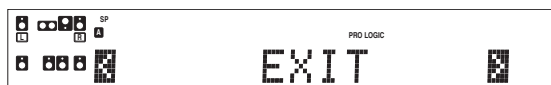
- ② MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(Δ/▽) キーを使って表示モードを選択する。

- ① DISP SELECTOR : 選ばれている入力ソースを表示します。
- ② DISP LISTEN : 選ばれているリスンモードを表示します。



- ③ SETUPキーをもう一度押して確定させる。

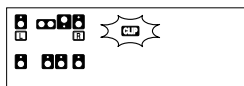
- ④ 左キーまたは、Multi(>) キーを使ってEXITを選ぶ。



- ⑤ SETUPキーを押すと設定モードが終了します。

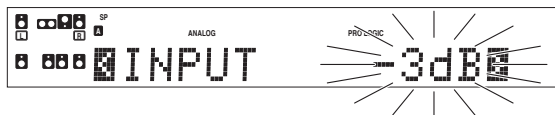
インプットレベルの調整(アナログ再生時のみ)

アナログソースから入力されている信号が大きすぎるとき、^{クリップ}CLIP表示が点灯します。インプットレベルを調整してください。



- ① インプットセクターキーで調整したいソースを選ぶ。
 - それぞれの入力ソースに異なる入力レベルを記憶することができます。
- ② ^{サウンド}SOUNDキーと^{マルチ}▲/▼キーまたは、^{マルチ}Multi (<V>)キーを繰り返し押して“INPUT”表示にする。

- ③ ^{マルチ}MULTI CONTROLつまみまたは、^{マルチ}Multi (▲/▼) キーを使ってインプットレベルを調整する。

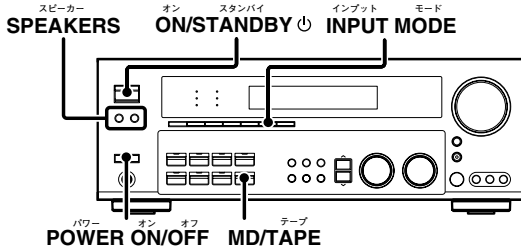


- 調整モードは約20秒間表示されます。
 - インプットレベルは 0dB、-3dB、-6dBの3段階で調整できます(初期設定は0dB)。
- ④ ^{サウンド}SOUNDキーをもう一度押して、入力表示に戻す。

再生のしかた

再生をする前に

再生をする前に必要な準備をしておきましょう。



電源の入れかた

- 1 関連機器を接続し、電源をオンにする。
- 2 POWER ON/OFF オフ オン スタンバイ オン オフ オン スタンバイ オフ キーを押して本機の電源をオンにする。

インプットモードの選択

CD/DVD、^{ビデオ}VIDEO 2、^{ビデオ}VIDEO 3、または^{インプット}DVD/6CH INPUT端子に接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号(デジタル入力またはアナログ入力)に合っていることを確認してください。 → 12

MD/TAPEの選択

MD/TAPE端子に接続した機器に入力の名称を合わせてください。工場出荷時は、“TAPE”になっていますので、“MD”に変更したいときは以下の操作を行ってください。

MD/TAPEキーを2秒以上押し続ける。

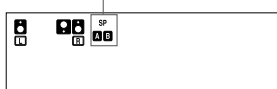
- 入力表示が“MD”にかわります。
- 元の表示に戻りたいときは、この操作を繰り返してください。

スピーカーシステムの選択

スピーカーシステムを選択するため^{スピーカー}SPEAKERS Aまたは^{スピーカー}SPEAKERS Bキーを押してください。

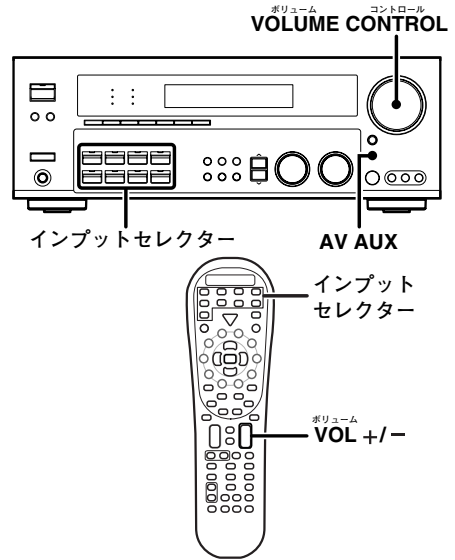
- ^{オン}A ON : 背面の^{スピーカー}SPEAKERS A端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。
- ^{オン}B ON : 背面の^{スピーカー}SPEAKERS B端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。サブウーファーからは、音は出力されません。
- ^{オン}A+B ON : 背面の^{スピーカー}SPEAKERS Aおよび^{スピーカー}B端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。
- ^{オフ}A+B OFF : スピーカーから音声は出力されません。すべての再生モードでヘッドホンを使用する際に設定してください。入力信号に応じて表示状態が変わります。

使用するスピーカーに対応する表示が点灯します。



- 入力ソースに“DVD/6CH”が選択され、かつインプットモードに“6CH INPUT”が選ばれている場合、スピーカー Aが自動的に選択されます。

普通の再生



- 1 インプットセレクターとAV AUXキーで聴きたいソースを選ぶ。

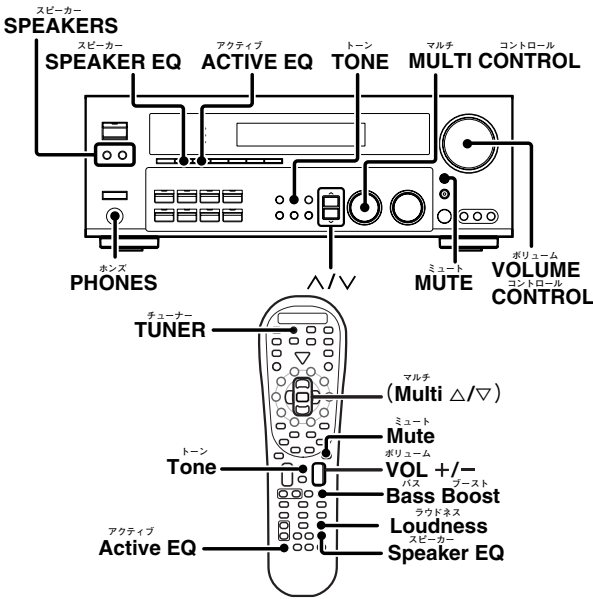
それぞれのキーを使い入力ソースを選択してください。

- ① “DVD/6CH”
- ② “CD/DVD”
- ③ “PHONO”
- ④ “TUNER” (FM/AM放送受信)
- ⑤ “VIDEO1”
- ⑥ “VIDEO2”
- ⑦ “VIDEO3”
- ⑧ “MD/TAPE”
- ⑨ “AV AUX”

- 2 選んだソースを再生する。

- 3 ^{ボリューム}VOLUME CONTROLつまみ、または^{ボリューム}VOL +/- キーで音量を調節する。

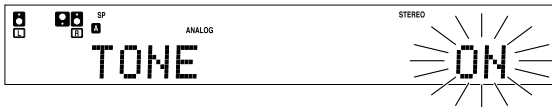
音の調節のしかた



トーンレベルを設定する

トーンレベルは、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ“THX OFF”のときに設定できます。

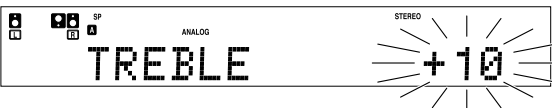
- ① リモコンで操作するときは、リモコンの^{チューナー}TUNERキーを3秒以上押し、リモコンをレシーバー操作モードにする。
- ② ^{トーン}TONEキーを押して、トーンレベル設定モードにする。
- ③ ^{マルチ}MULTI CONTROLつまみまたは、^{マルチ}Multi (Δ/▽) キーを使って^{オン}ON/OFFを選択する。



- ④ ^{トーン}TONE ONを選択してもう一度^{トーン}TONEキーを押すと、次の順番で切り換わります。

BASS : バス(低音)レベルの設定。
TREBLE : トレブル(高音)レベルの設定。

- ⑤ ^{マルチ}MULTI CONTROLつまみまたは、^{マルチ}Multi (Δ/▽) キーを使ってトーンレベルを設定する。



- バスとトレブルのレベルは-10から+10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 調整項目は約20秒間表示されます。
- スピーカーA側のみ効果があります。

バスブースト機能(リモコンのみ)

バスブースト機能は、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ“THX OFF”のときに使えます。

^{バス}Bass Boostキーを押す。

- バス(低音)レベルが最大値(+10)に設定されます。
- トーンレベル設定モード、または37~41ページで説明されているモードである場合、^{バス}Bass Boostは使えません。
- スピーカーA側のみ効果があります。

もとの状態にもどすには

もう一度^{バス}Bass Boostキーを押します。

ラウドネス機能(リモコンのみ)

ラウドネス機能はボリュームが低いとき有効で、低音と高音のレベルを高くすることで、よりクリアな音を楽しめます。この機能はPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ“THX OFF”のときに使えます。

^{ラウドネス}Loudnessキーを押して^{ラウドネス}LOUDNESS設定を^{オン}ONにする。

- スピーカーA側のみ効果があります。

解除するには

もう一度^{ラウドネス}Loudnessキーを押して“^{ラウドネス}LOUDNESS”表示を消灯させます。

一時的に音を消す

^{ミュート}MUTEキーを使ってスピーカーから出る音を消すことができます。

^{ミュート}MUTEキーを押す。



解除するには

もう一度^{ミュート}MUTEキーを押して“^{ミュート}MUTE”表示を消灯させます。

- ^{ボリューム}VOLUME CONTROLつまみを回した場合、または^{ボリューム}VOL +/-キーを押した場合は^{ミュート}MUTEは解除されます。

アクティブ ACTIVE EQモード

ドルビーデジタルおよびDTS再生、そしてAAC、PCMおよびアナログモードにおいてACTIVE EQ機能をONにするるとより印象的な音声効果を楽しむことができます。

アクティブ
Active EQキーを押すと以下のように切り換わります。

- ① **ACTIVE EQ MUSIC** : 音楽を聴く際に効果があります。
(ACTIVE EQ表示が点灯)
 - ② **ACTIVE EQ CINEMA** : 映画を見る際に効果があります。
(ACTIVE EQ表示が点灯)
 - ③ **ACTIVE EQ TV** : テレビを見る際に効果があります。
(ACTIVE EQ表示が点灯)
 - ④ **ACTIVE EQ OFF** : ACTIVE EQ機能が解除されます。
(ACTIVE EQ表示が消灯)
- ディスプレイ上で“ACTIVE EQ”が右から左へスクロールします。
 - ACTIVE EQ機能はREC MODE、AUTO 選局中、または放送局を記憶させているときには使用できません。

スピーカー SPEAKER EQモード

組み合わせられるスピーカーの特性に合った調節を行う機能で、スピーカーのサイズに合った特性にします。小型スピーカーなど、スピーカーの大きさにかわらず、臨場感のあるサウンドが楽しめます。

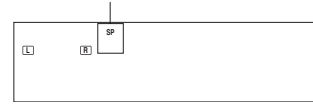
スピーカー
Speaker EQキーを押すと以下のように切り換わります。

- ① **SPEAKER EQ SMALL** : 小口径のスピーカーを選択する。
(SPEAKER EQ表示が点灯)
 - ② **SPEAKER EQ MEDIUM** : 標準口径のスピーカーを選択する。
(SPEAKER EQ表示が点灯)
 - ③ **SPEAKER EQ OFF** : SPEAKER EQ機能が解除されます。
(SPEAKER EQ表示が消灯)
- ディスプレイ上で“SPEAKER EQ”が右から左へスクロールします。
 - SPEAKER EQ機能はREC MODE、AUTO 選局中、または放送局を記憶させているときには使用できません。
 - フロントスピーカーの設定で“LARGE”を選んだときは、SPEAKER EQ機能を使用できません。

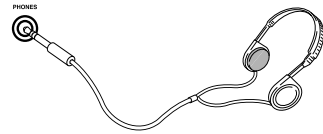
ヘッドホンで聴く

- ① **SPEAKERS A**および**B**キーを押して、スピーカーへの出力を切ります。
 - スピーカーへの出力を切ると、スピーカー表示は消灯します。

スピーカー表示の消灯を確認します。



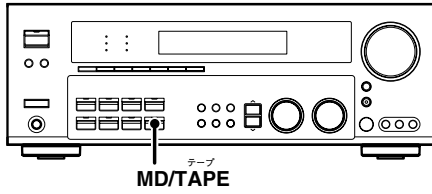
- サラウンドモード時にスピーカーをオフにすると、サラウンドモードは解除され、ステレオ再生になります。
- ② ヘッドホンを**PHONES**端子につなぐ。



- ③ **VOLUME CONTROL**つまみ、または**VOL +**キーで音量を調節する。

録音(録画)のしかた

録音のしかた(アナログソース)



音楽ソースを録音する

- ① インプットセクターキーで録音するソース(“MD/TAPE”以外)を選ぶ。
- ② カセットデッキ、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。
- ③ ソースを再生し、録音を開始する。

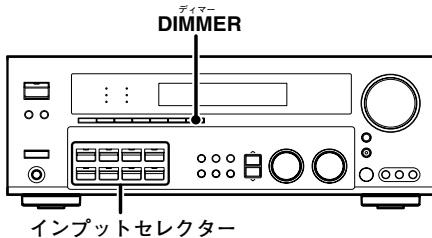
録画のしかた

- ① インプットセクターキーで録画するソース(“VIDEO 1”以外)を選ぶ。
- ② VIDEO 1端子に接続したビデオデッキを録画待機状態にする。
 - デジタルソースを録画する場合は次の“録音のしかた(デジタルソース)”を見てください。
- ③ ソースを再生し、録画を開始する。
 - 録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。 → [52]

録音のしかた(デジタルソース)

デジタル入力信号を録音するためには通常 REC(録音)モード オートを使用します。RECモード オートで録音中にデジタル入力ソースが切りかわった場合は入力ソースがとぎれることがあります。

RECモード オート(またはMANUAL)で録音する



- ① インプットセクターキーで録音するソース(CD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2、VIDEO 3)を選ぶ。
- ② カセットデッキ、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。

- ③ デジタル入力中にDIMMERキーを2秒以上押し、RECモード オートまたはRECモード MANUALを選ぶ。

- | | |
|----------------|------------------------------------------------------------------------|
| ① RECモード オート | ： オフ |
| ② RECモード オート | デジタル信号(DTS、ドルビーデジタル、AAC、PCM)はステレオ信号にダウンミックスしてアナログ録音端子(REC OUT)から出力します。 |
| ③ RECモード マニュアル | |

RECモード マニュアルを選んだときには、入力されている信号はステレオ信号にダウンミックスして出力しますが、他のデジタル信号に切りかわった場合は出力しません。RECモード オートを選んだときには、デジタル信号が切りかわっても、信号を検出してステレオ信号にダウンミックスして出力します。

RECモード オート



RECモード マニュアル

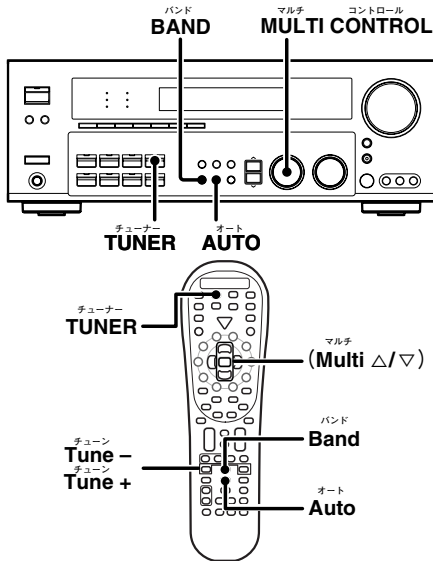


- ④ ソースを再生し、録音を開始する。
 - 音声が出力されないときはDIMMERキーを押します。

放送を聴く

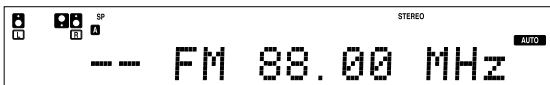
放送局を最大40局まで記憶できます。ワンタッチで受信することもできます。

放送を受信する



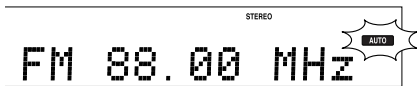
1 ^{チューナー} TUNERキーを押す。

2 ^{バンド} BANDキーで放送バンドを選ぶ。
押すたびにバンドが切り換わります。



3 ^{オート} AUTOキーで選局方法を選ぶ。
押すたびに以下のように選局方法が切り換わります。

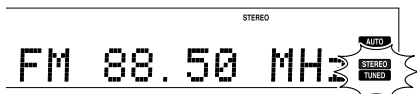
- ① オート選局 (オート表示が点灯)
 - ② マニュアル選局 (オート表示が消灯)
- オート選局にすると^{オート}AUTO表示が点灯します。



- 通常は、“^{オート}AUTO” (オート選局) にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。)

4 ^{マルチ コントロール} MULTI CONTROLつまみまたは、^{マルチ} Multi (Δ/▽) キーまたは、^{チューン} Tune - / + キーで放送局を選ぶ。

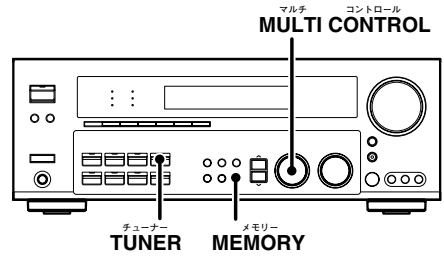
ステレオ番組のとき、^{ステレオ}STEREO表示が点灯します。



受信すると、^{チューンド}TUNED表示が点灯します。

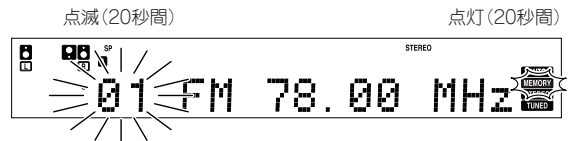
- オート選局のとき : 自動的に次の放送局を受信します。
- マニュアル選局のとき : 受信するまで、^{マルチ コントロール}MULTI CONTROLつまみを回す、または^{マルチ}Multi (Δ/▽) キーを押します。

放送局を記憶させる



1 記憶させたい放送局を受信する。

2 受信中に^{メモリー}MEMORYキーを押す。



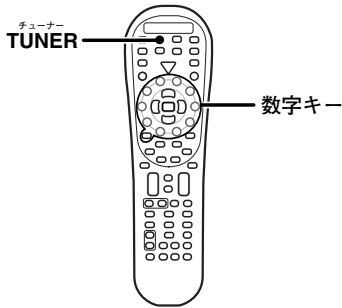
20秒以内に手順②へ進む。
(20秒以上たった場合は、もう一度MEMORYキーを押します。)

3 ^{マルチ コントロール} MULTI CONTROLつまみまたは、^{マルチ} Multi (Δ/▽) キーを使って1~40のプリセット番号を選ぶ。

4 ^{メモリー} MEMORYキーをもう一度押して確定させる。

- 手順①、②、③、④を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する



1 チューナー TUNERキーを押す。

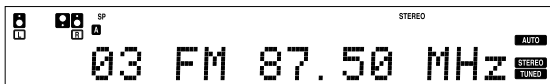
2 数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す(最大“40”)。

数字キーを押す順序は...

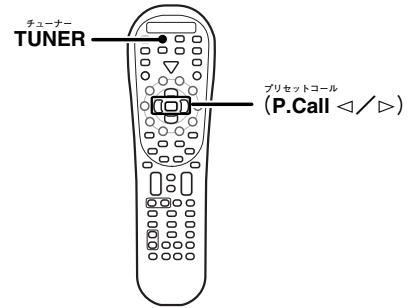
“15” なら **+10**, **5**

“20” なら **+10**, **+10**, **0**

- 10の桁を押し間違えたときは、+10キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。



記憶させた放送局を順に聴くプリセットコール(P.Call)

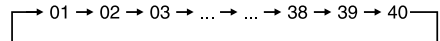


1 チューナー TUNERキーを押す。

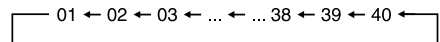
2 プリセットコール P.Call **</>** キーを使って選局する。

- キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

プリセットコール P.Call **>** キーを押すと次のように切り換わります。



プリセットコール P.Call **<** キーを押すと次のように切り換わります。



- ▷キーまたは◁キーを押したままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

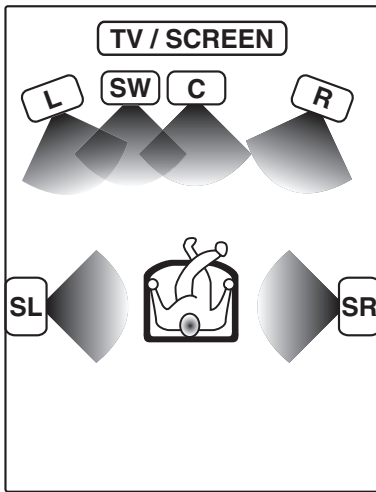
臨場感を楽しむ

本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。 -24-

サウンドモードの種類

- 下図は
- ドルビー デジタル Dolby Digital
 - ドルビー プロロジック Dolby Pro Logic II
 - DTS
 - DTS 96/24
 - DSP
 - DVD 6チャンネル
 - AACマルチチャンネルモード

のような5.1チャンネルサウンドシステムのためのスピーカー設置図です。この場合は、SBLとSBRからは音は出ません。

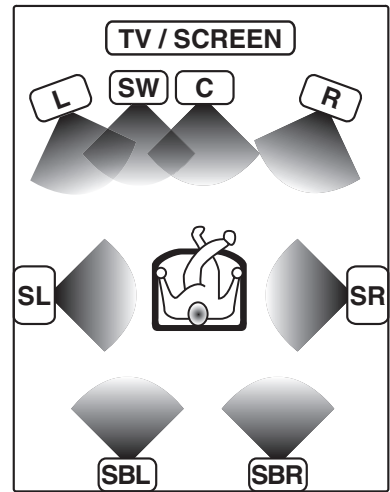


サラウンドバックスピーカー無し

- 下図は
- ドルビー デジタル Dolby Digital EX*
 - DTS-ES*
 - THXサラウンド EX*
 - NEO : 6*
 - ドルビー プロロジック Dolby Pro Logic IIx

のような6.1または7.1チャンネルサウンドシステムのためのスピーカー設置図です。

(*SBL、SBRからは同じ音が出されます。)



サラウンドバックスピーカー有り

- L フロント左スピーカー
- SW サブウーファー
- C センタースピーカー
- R フロント右スピーカー
- SL サラウンド左スピーカー
- SR サラウンド右スピーカー
- SBL サラウンドバック左スピーカー
- SBR サラウンドバック右スピーカー

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
DOLBY、PRO LOGIC、SURROUND EX、AAC及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

「DTS」、「DTS-ES」、「Neo:6」及び「DTS 96/24」はデジタルシアターシステムズの商標です。



THXは、THX,Ltd.の商標または登録商標です。「Surround EX」はTHXとドルビーラボラトリーズの技術により共同開発されました。「Surround EX」はドルビーラボラトリーズの登録商標であり、版權が所有されています。これらの商標は許可のもとに使用されています。

上記以外のスピーカーシステムを設置している場合でも、ドルビー デジタル Dolby Digital、DTSおよびAACのソースを、そのスピーカーシステムにとって最良の状態でお楽しみいただけます。

Dolby Digital

ドルビーデジタルサウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース（DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど）からの5.1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。

Dolby Digital EX

Dolby Digital EXはドルビーデジタルの延長線上の技術です。ドルビーデジタル EXは6.1チャンネルのソースから各チャンネルが音声帯域全体をカバーする6つの出力チャンネルを再生します。これはマトリクスデコーダーを使い2つのサウンドチャンネルから3つのサウンドチャンネルをとりだすことにより実現されます。各サウンドチャンネルはサウンドレフト、サウンドライトおよびサウンドバックでそれぞれのスピーカー群を駆動します。背後にサウンドバックスピーカーを置くことを想像してみてください。これにより音に包まれる、または飛び回る音を再現することができ、より自然な音響効果を楽しむことができます。Dolby Digital EXはドルビーデジタル Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックの再生に適しています。Dolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックはDolby Digital EXを動作させるためのフラッグ（符合）もあわせて録音されていますが、2001年以前に発売されたCD、DVDまたはLDはこのフラッグが録音されていないため手動でリッスンモードを設定しなければならないものもあります。

ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“LFE”表示が点灯します。

Dolby PRO LOGIC II & Dolby PRO LOGIC II x

この新しいサウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています（DOLBY SURROUND マークのあるビデオやレーザーディスクソフト等）。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サウンドやステレオのマトリクスデコーディング、全帯域サウンド出力が特長です。特にPRO LOGIC IIxでは従来のステレオまたは5.1チャンネルに2つのサウンドバックチャンネルを加えることにより、これまでにないほど自然に包み込まれるような臨場感あふれるサウンドサウンドを体験することができます。特に7.1チャンネルを選択した場合は、後方においてより定位感のあるサウンド効果を楽しむことができます。

本機にプログラムされているPRO LOGIC IIxモードはMOVIE、MUSIC、GAMEの3種類です。PRO LOGIC IIモードはMOVIE、MUSIC、GAME、PRO LOGICの4種類です。MOVIEモードは映画に、MUSICモードは音楽再生に、GAMEモードはゲームを楽しむ際に適するよう、計算された質の高いサウンドサウンドを再生するプログラムがなされています。特にGAMEモードでは、フロントとセンターからの低音のみならずサウンドチャンネルからの低音もサブウーファーに加えられ、よりダイナミックなサウンド効果が得られます。

DTS (Digital Theater System)

DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサウンド再生ができます。DTS マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音の厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサウンドが特長です。

DTS-ES

DTS-ES (Extended Surround) は従来の5.1chのサウンドを進展させ、サウンドバックチャンネルが加わった6.1chサウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD、CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したサウンドバックを持つDTS-ES Discrete 6.1 とマトリクス技術を駆使し左右のサウンドチャンネルに埋め込まれたサウンドバックを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたサウンドバックチャンネルによる6.1chサウンド再生は後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。DTS-ES 技術を使って記録されたプログラムソースには Discrete と Matrix のモードを動作させる情報もあわせて記録されていて、この製品は自動的にモードを選択します。

Neo:6

Neo:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサウンドを楽しむことが可能です。Neo:6には映画を楽しむための "CINÉMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。

DTS 96/24

DTS 96/24はサンプリング周波数を96kHzに上げることにより、48kHzにも及ぶ広い周波数帯域を可能としています。また、最高で24bitの分解能を有し、DVDビデオのオリジナル・マスター同等の96kHz/24bitの広大なダイナミックレンジを実現しています。同時に、これまでのDTSサウンドシステム同様、マルチチャンネルに対応しており、DTS 96/24で録音されたDVDやCDでは広い周波数帯域、ダイナミックレンジでマルチチャンネルを楽しむことができます。

DTSには ".1" または LFE チャンネルがあります。このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“LFE”表示が点灯します。

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性の低い低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

THX

映画のサウンドトラックはダビングステージと呼ばれる特別な映画館で、同じような装置および環境の映画館で再生されることを目的としてミキシングされます。同じサウンドトラックがLD、ビデオテープ、DVD等に録音されますが、ホームシアター環境に適するように変更されていません。

THXの技術者はホームシアターで発生する音色および空間的な差異を最小にすることで、映画館でのサウンドを正確にホームシアターで再現できる技術を開発し、特許をとりました。映画館で再生することを意図とした映画を見ている場合はTHXを起動して下さい。本機のTHX表示が点灯すると、次のTHXの機能が映画再生モード(例: Dolby Digital+THX、DTS+THX、THX Surround EX他)で作動します。

Re-Equalization (Re-EQ)

映画のサウンドトラックは広い映画館で専用のシステムを使って再生する目的で録音されているため、家庭用の機器で再生すると耳障りになります。Re-Equalizationは、ご家庭で映画のサウンドトラックを楽しむときに、この耳障りな音を調整し、ご家庭の環境に合わせます。

Timbre Matching

人の耳は、音のくる方向によって音に対する知覚が変わります。映画館では多数のサラウンドスピーカーを使っているのに音に包まれますが、ホームシアターでは2台のサラウンドスピーカーしかありません。Timbre Matching機能はサラウンドスピーカーに送られる信号にフィルターをかけ、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの音色特性を合わせることで、フロントスピーカーからサラウンドスピーカーへの音の動きをスムーズにします。

Adaptive Decorrelation

映画館では多数のサラウンドスピーカーによって音に包まれる体験ができますが、ホームシアターでは通常2台のサラウンドスピーカーしかありません。2台のサラウンドスピーカーでは音はヘッドフォンで聴くように聞こえ、音の広がり、および音に包まれることはできません。サラウンドスピーカーからの音はサラウンドスピーカー間の中間位置から離れると、近くのスピーカーの音に吸収されてしまい聞き分けができなくなります。Adaptive Decorrelationは他のサラウンドチャンネルの音との時間軸と位相を少し変化させます。これにより聴く位置が広がり、2台のサラウンドスピーカーで映画館と同じような音の広がりを楽しめます。

THX Select

THX Selectのロゴが付いている全てのホームシアター用の機器は、上記のすべての機能を備え、厳格な品質検査および性能検査を受けています。検査は高品質を維持するためにデジタルおよびアナログ領域の数百の項目に渡り、お客様がTHX Selectのロゴが付いている機器を購入後の長い期間に渡りその性能を保証します。このようにTHX Selectのロゴが付いている機器はプリアンプ、パワーアンプを含む、広範囲にわたる厳格な検査を受けています。

THX Surround EXモード

THX Surround EX-Dolby Digital Surround EXはドルビーラボラトリーとルーカスフィルムのTHX部門が共同で開発した技術です。映画館ではDolby Digital Surround EX技術を使いミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。このチャンネルはサラウンドバックと呼ばれ、現在の左右およびセンターのフロントスピーカー、左右のサラウンドスピーカーおよびサブウーファーチャンネルに加えて、サウンドトラックを楽しむ人の後ろにスピーカーを置きます。この追加されたチャンネルはサウンドトラックを聞く人に、より繊細な後方サウンドイメージを与えることができ、以前に経験したことが無いような深く、広がりのあるサウンドを楽しむことができます。

Dolby Digital Surround EX技術を使って制作された映画が一般消費者市場で販売される場合にはDolby Digital Surround EXのロゴがパッケージに付いています。この技術を使って制作された映画の一覧表はドルビーラボラトリーのウェブサイト<http://www.dolby.com>で見ることができます。

THX Surround EXのロゴが付いているA/Vレシーバー、およびコントローラーだけがTHX Surround EXモードで、この新技術を家庭で忠実に再生することができます。

本機はDolby Digital Surround EXでエンコードされていない5.1チャンネルのサウンドをTHX Surround EXモードで再生することができます。このような場合は、サラウンドバックチャンネルは再生するプログラムに左右され、サウンドトラック、または個人差によりあまり好ましくないサウンドになることがあります。

AACマルチチャンネルモード

BSデジタル放送のマルチチャンネル音声フォーマットであるAAC方式(Advanced Audio Coding)に対応。BSデジタル放送で配信されるマルチチャンネルの映画などを最大5.1チャンネルの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

DSPモード

DSP(デジタルシグナルプロセッサ)サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤーやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

DSPモードについて


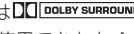
通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPモードは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

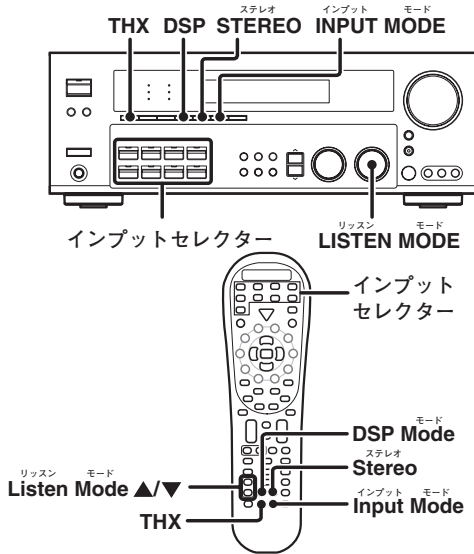
DVD 6チャンネル

6(5.1)チャンネル出力を持つDVDプレーヤー等の機器を本機に接続することにより、マルチチャンネルでエンコードされたDVD等のソースを最大5.1チャンネルでのサラウンド再生を楽しむことができます。独立したデジタルの各チャンネルを個々に入力することにより、広帯域で広ダイナミックレンジの質の高い音を再生することができます。

DVD 6チャンネルモードが選ばれているときは、ディスプレイに**"6CH INPUT"**が点灯します。

サラウンド再生

DTSリスンモードはDTSマークの付いたCD、DVDまたはLDのサウンドソースを再生できます。DOLBY DIGITALリスンモードは  マークの付いたDVDまたはLDの再生およびドルビーデジタルフォーマットのデジタル信号を再生するときに使います。DOLBY PRO LOGICリスンモードは  マークの付いたビデオDVDまたはLDを再生する時に使用できます。AACリスンモードはBSデジタル放送のAACデジタル信号を再生するときに使います。



準備しましょう

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする(「スピーカーの設定をする」)。→(24)
- **インプットセレクト**キーで再生したい入力ソースを選ぶ。
- **INPUT MODE**キーで、再生したいソースの入ットモード(アナログまたはデジタル)を選ぶ。→(12)
- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

1 ビデオソフトなどを再生する。

2 LISTEN MODEつまみまたはListen Mode ▲/▼キーでリスンモードを選ぶ。

リスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると(AUTO DETECT表示が点灯)、入力信号のタイプやスピーカー設定の内容に合うリスンモードが自動的に選ばれます。

LISTEN MODEつまみを回すたびに、またはListen Mode ▲/▼キーを押すたびに以下のように設定が変わります。

このとき、以下のリスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選ばれます。

Dolby Digital Surround EX対応ディスクについて:

Dolby Digital Surround EX対応ディスクには識別信号が記録されています。本機のインプットモードの設定(→(12))でFULL AUTOを選んだときには、そのディスクの識別信号によりリスンモードをその信号に最適なモードに切り換えて再生します。まれに対応ディスクであっても、この識別信号が記録されていないディスクがあります。そのときは6.1または7.1チャンネルのお好きなリスンモードに切り換えてください。

DOLBY DIGITALまたはDOLBY DIGITAL EX信号を入力しているとき:

- | | |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| ① DOLBY DIGITAL | : DOLBY DIGITALサラウンド
(DOLBY DIGITAL表示が点灯) |
| ② DOLBY D EX | : DOLBY DIGITAL EXサラウンド
(DOLBY DIGITAL表示が点灯) |
| ③ D+PL IIx MOVIE | : DOLBY DIGITAL+PRO LOGIC IIxサラウンド MOVIEモード
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ④ D+PL IIx MUSIC | : DOLBY DIGITAL+PRO LOGIC IIxサラウンド MUSICモード
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑤ PL IIx MOVIE | : PRO LOGIC IIxサラウンド MOVIEモード*
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑥ PL IIx MUSIC | : PRO LOGIC IIxサラウンド MUSICモード*
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑦ PL IIx GAME | : PRO LOGIC IIxサラウンド GAMEモード*
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑧ PL II MOVIE | : PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード*
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑨ PL II MUSIC | : PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード*
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑩ PL II GAME | : PRO LOGIC IIサラウンド GAMEモード*
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑪ PRO LOGIC | : PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード*
(DOLBY DIGITALとPRO LOGIC 表示が点灯) |
| ⑫ STEREO | : 通常のステレオ再生
(DOLBY DIGITALとSTEREO 表示が点灯) |

(*2チャンネルステレオ信号のときのみ選択できます)

DOLBY DIGITALを選んだとき

DOLBY DIGITALの文字が表示されます。



DTSまたはDTS-ES(マトリクスまたはディスクリート)信号を入力しているとき:

- | | |
|--------------------|---------------------------------------------------------|
| ① DTS-ES Mtrx 6.1 | : DTS-ESマトリクス6.1チャンネルサラウンドモード
(DTSとMATRIX 表示が点灯) |
| ② DTS-ES Dscrt 6.1 | : DTS-ESディスクリート6.1チャンネルサラウンドモード
(DTSとDISCRETE 表示が点灯) |
| ③ DTS | : DTS 5.1チャンネルサラウンドモード
(DTS表示が点灯) |
| ④ DTS+NEO:6 Cin | : DTS+NEO:6サラウンド シネマモード
(DTSとNEO:6 表示が点灯) |
| ⑤ NEO:6 CINEMA | : NEO:6サラウンド シネマモード*
(DTSとNEO:6 表示が点灯) |
| ⑥ NEO:6 MUSIC | : NEO:6サラウンド ミュージックモード*
(DTSとNEO:6 表示が点灯) |
| ⑦ DTS 96/24 | : DTS 96/24再生モード
(DTS 表示が点灯) |
| ⑧ STEREO | : 通常のステレオ再生
(DTSとSTEREO 表示が点灯) |

(*2チャンネルステレオ信号のときのみ選択できます)

AAC信号を入力しているとき:

- ① AAC : AACモード。
(AACインジケータが点灯)
- ② AAC+PL IIx MOVIE : AAC+PRO LOGIC IIx サラウンド MOVIEモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ③ AAC+PL IIx MUSIC : AAC+PRO LOGIC IIx サラウンド MUSICモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ④ AAC+DOLBY EX : AAC+DOLBY DIGITAL EXサラウンドモード
(AACインジケータが点灯)
- ⑤ PL IIx MOVIE : PRO LOGIC IIx サラウンド MOVIEモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ⑥ PL IIx MUSIC : PRO LOGIC IIx サラウンド MUSICモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ⑦ PL IIx GAME : PRO LOGIC IIx サラウンド GAMEモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ⑧ PL II MOVIE : PRO LOGIC II サラウンド MOVIEモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ⑨ PL II MUSIC : PRO LOGIC II サラウンド MUSICモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ⑩ PL II GAME : PRO LOGIC II サラウンド GAMEモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ⑪ PRO LOGIC : PRO LOGIC II サラウンド PRO LOGICモード*
(AACインジケータとPRO LOGIC表示が点灯)
- ⑫ NEO:6 CINEMA : NEO:6サラウンド シネマモード*
(AACインジケータとNEO:6 表示が点灯)
- ⑬ NEO:6 MUSIC : NEO:6サラウンド ミュージックモード*
(AACインジケータとNEO:6 表示が点灯)
- ⑭ STEREO : 通常のステレオ再生。
(AACインジケータとSTEREO表示が点灯)

(*2チャンネルステレオ信号のときにのみ選択できます)

AACを選んだとき、二重音声放送の主音声/副音声の切り換えは、“主音声/副音声の切り換え”をご覧ください。 →(41)

DOLBY DIGITAL、DTSまたはAAC以外のデジタル信号またはアナログ信号のとき:

- ① PL IIx MOVIE : PRO LOGIC IIx サラウンド MOVIEモード。
(PRO LOGIC表示が点灯)
- ② PL IIx MUSIC : PRO LOGIC IIx サラウンド MUSICモード。
(PRO LOGIC表示が点灯)
- ③ PL IIx GAME : PRO LOGIC IIx サラウンド GAMEモード。
(PRO LOGIC表示が点灯)
- ④ PL II MOVIE : PRO LOGIC II サラウンド MOVIEモード。
(PRO LOGIC表示が点灯)
- ⑤ PL II MUSIC : PRO LOGIC II サラウンド MUSICモード。
(PRO LOGIC表示が点灯)
- ⑥ PL II GAME : PRO LOGIC II サラウンド GAMEモード。
(PRO LOGIC表示が点灯)
- ⑦ PRO LOGIC : PRO LOGIC II サラウンド PRO LOGICモード。
(PRO LOGIC表示が点灯)
- ⑧ NEO:6 CINEMA : NEO:6 サラウンド シネマモード。
(NEO:6表示が点灯)
- ⑨ NEO:6 MUSIC : NEO:6 サラウンド ミュージックモード。
(NEO:6表示が点灯)
- ⑩ STEREO : 通常のステレオ再生。
(STEREO表示が点灯)

- DOLBY DIGITAL、DTSやAAC信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在の設定に合わせられます。

3 DSPモード(デジタルシグナルプロセッサ)。

DSPはオリジナルの音楽またはビデオの品質を劣化させることなく再生することができます。

DOLBY DIGITAL、DTSまたはAAC以外のデジタル信号またはアナログ信号のときに選択できます。

- ① DSPまたはDSP Modeキーを押すと現在のDSP MODEの設定が表示されます。

② キーを押すたびに以下のように切り換わります。

- ① ARENA : DSPサラウンド ARENAモード。
- ② JAZZ CLUB : DSPサラウンド JAZZ CLUBモード。
- ③ THEATER : DSPサラウンド THEATERモード。
- ④ STADIUM : DSPサラウンド STADIUMモード。
- ⑤ DISCO : DSPサラウンド DISCOモード。
- DSPモード選択は約3秒間表示されます。

4 THXモード。

THXモードでは、THX Surround EX技術によりサラウンドチャンネルの音場、臨場感を改善し家庭で映画館でのサウンドを再現します。

THXキーを押して以下の設定を選択する。

- ① THX Sur EX AUTO : Dolby Digital Surround EXのサウンドトラックを検出するとTHX Surround EX機能が起動されます。
(THXインジケータが点灯)
- ② THX Sur EX ON : ドルビーデジタル5.1chフォーマットのサウンドトラックを検出するとTHXサラウンドEX機能が起動されます。
(THXインジケータが点灯)
- ③ THX ON : THXモードがONのとき。
(THXインジケータが点灯)
- ④ THX OFF : THXモードがOFFのとき。
(THXインジケータが消灯)

- THX Surround EX機能が動作していることはTHX表示がディスプレイ内で点灯することで確認できます。
- サラウンドバックスピーカーがOFFの場合はTHX Sur EX ONおよびTHX Sur EX AUTOメニューは使用できません。
- THX設定はインプットチャンネルごとに個別に設定できます。
- PL IIx MUSIC、PL IIx GAME、PL II MUSIC、PL II GAME、NEO:6 MUSIC、ACTIVE EQまたはSPEAKER EQがONの場合、THX機能は動作しません。

5 音量を調節する。

DVD 6チャンネル

リスンモードを一時的にSTEREOモードにするには

STEREOキーを押すと、現在選択されているリスンモードをSTEREOモードに切り換えることができます。もう1回押すと、元のリスンモードに戻ります。

- 電源を切り再び電源をオンにしたとき、またはセレクタを切り換えて元のセレクタに戻した時も、元のリスンモードに戻ります。

ご注意

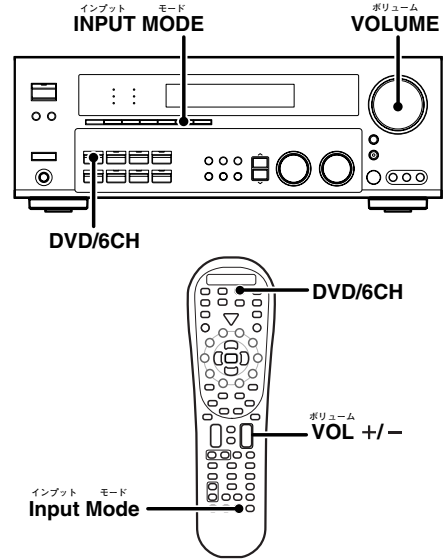
- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードがあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。
- Dialogue Normalization (Dial Norm)はドルビーデジタルの特徴で、自動的にサラウンドサウンド全体のレベルを一定に保ちます。



Dolby Digitalのソースの中には再生中に“DIALNORM OFFSET xxdB”のメッセージが表示されるものがあります。これはサウンドトラックが通常のレベルより高く(低く)録音されていることを表し、xxがその程度を示します。

例として、“DIALNORM OFFSET +4dB”が表示された場合は、再生レベルが通常より4dB高いことを示します。再生レベルを通常のレベルにしたいときはボリュームレベルを4dB下げてください。

6(5.1)チャンネル出力を持つDVDプレーヤーを使って、サラウンドサウンド再生を楽しむことができます。サラウンドソースを再生することができるDVDプレーヤーを接続することができます。



準備しましょう

- お手持ちのDVDプレーヤーをDVD/6CH INPUT端子に接続する。 - [13]
- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする。 - [24]

1 入力ソースとしてDVD/6CHキーを押す。

2 INPUT MODEキーで“6CH INPUT”を選ぶ。

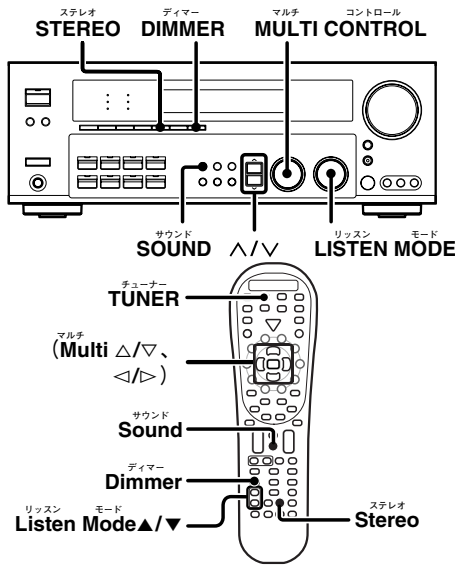
- “6CH INPUT”を選んだときにスピーカーBが選ばれているときは自動的にスピーカーBをオフにし、スピーカーAがオンになります。

3 DVDプレーヤーを再生する。

4 音量を調節する。

- INPUT MODEが6CH INPUTモードになっていると、TONEや各スピーカーの音量レベルを調節することはできません(25ページで調節した各スピーカーの音量レベルは適応されません)。各スピーカーの音量はDVDプレーヤーで調節してください。パワードサブウーファースの音量はサブウーファーについての音量調節つまみで調節してください。

便利な機能



音を調整するには

再生中にお好みで音を調整することができます。

- ① リモコンで操作するときは、リモコンのTUNERキーを3秒以上押し、リモコンをレシーバー操作モードにする。
- ② SOUNDキーを押し、要求項目が表示されるまで△/▽キーまたは、Multi (</>) キーを繰り返し押す。

△/▽キーまたは、Multi (</>) キーを押すたびに次のように切り換わります。このとき、モードによっては表示されない項目があります。

- ① CNTR (センタースピーカーレベルの調整)*
- ② SR (サラウンド右スピーカーレベルの調整)*
- ③ SBR (サラウンドバック右スピーカーレベルの調整)*
- ④ SBL (サラウンドバック左スピーカーレベルの調整)*
- ⑤ SL (サラウンド左スピーカーレベルの調整)*
- ⑥ SUBW (サブウーファーレベルの調整)*
- ⑦ INPUT (インプットレベルの調整: アナログモードのみ) → 27
- ⑧ MIDNIGHT (ミッドナイトモードのオン/オフ: ドルビーデジタルおよびDTSモードのみ)
- ⑨ PANORAMA (パノラマモードのオン/オフ)**
- ⑩ DIMENSION (ディメンション調節)**
- ⑪ CENTER WIDTH (センター幅調節)** → 41
- ⑫ DUAL MONO (主音声/副音声/主+副音声/Stereoの選択)**

* SOUND モードでの設定は一時的な設定です。電源のオン/オフやインプットセレクタの切り換えで、最初の「スピーカーの設定をする」で設定した値に自動的に戻ります。

** PRO LOGIC IIx と PRO LOGIC II のMUSIC モードのみ。

*** AACモードとDOLBY DIGITALのみ。

- ③ MULTI CONTROLつまみまたは、Multi (△/▽) キーを使ってレベルの調節や設定をする。

● 調整項目は約20秒間表示されます。

ミッドナイトモード (Dolby DigitalおよびDTSモードのみ)

夜中に映画を見る時など、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選べば、ドルビーデジタルおよびDTSの映像ソフトであらじめ指定されている部分(急に音量が大きくなるシーンなど)だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

- ① SOUNDキーを押し、「MIDNIGHT」が表示されるまで△/▽キーまたは、Multi (</>) キーを繰り返し押す。
 - CD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2またはVIDEO 3の入力で、リスンモードがドルビーデジタルまたはDTSのときのみ選べます。
- ② MULTI CONTROLつまみまたは、Multi (△/▽) キーを使ってON/OFFを選ぶ。



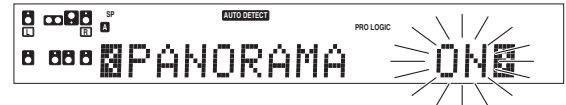
- 調整項目は約20秒間表示されます。
- ドルビーデジタルまたはDTSの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

PANORAMAモード

(PRO LOGIC IIx と PRO LOGIC II のMUSICモードのみ)

PANORAMA モードを使って、「音に包まれる」感覚を楽しめます。

- ① SOUNDキーを押し、「PANORAMA」が表示されるまで△/▽キーまたは、Multi (</>) キーを繰り返し押す。
- ② MULTI CONTROLつまみまたは、Multi (△/▽) キーを使ってPANORAMA ONまたはOFFを選ぶ。
 - ① PANORAMA ON : パノラマモードがONになる。
 - ② PANORAMA OFF : パノラマモードがOFFになる。

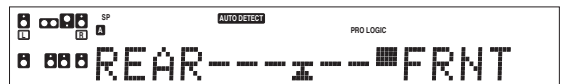


DIMENSIONモード

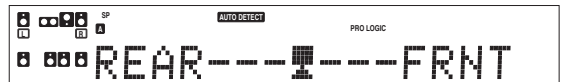
(PRO LOGIC IIx と PRO LOGIC II のMUSICモードのみ)

DIMENSION モードの調節で、全スピーカーのバランスを好みに合わせて調節することができます。

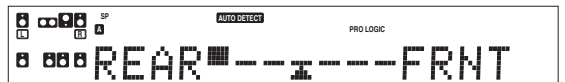
- ① SOUNDキーを押し、「DIMENSION」が表示されるまで△/▽キーまたは、Multi (△/▽) キーを繰り返し押す。
- ② MULTI CONTROLつまみまたは、Multi (△/▽) キーを使って音場を前後に調節する。音場が前寄りになる



音場がニュートラル



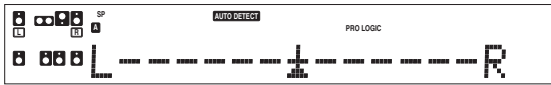
音場が後ろ寄りになる



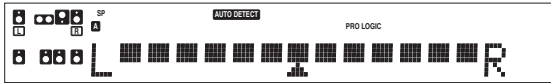
CENTER WIDTHモード (PRO LOGIC IIx と PRO LOGIC II のMUSICモードのみ)

PLII MUSICリッスンモードではCENTER WIDTH設定モードを使ってセンターチャンネルの出力信号を左右のフロントスピーカーに振り分けることができ、広がりのある音を楽しむことができます。

- ① **SOUND**キーを押し、“CENTER WIDTH”が表示されるまで
▲/▼キーまたは、**Multi**(◀/▶)キーを繰り返し押し。
 - CENTER WIDTH表示が表示窓に流れます。
 - センタースピーカーがオフのとき、この機能は動きません。
- ② **MULTI CONTROL**または、**Multi**(△/▽)キーを使って左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。
センター成分がセンタースピーカーからのみ聞こえる



センター成分が左右スピーカーからのみ聞こえる



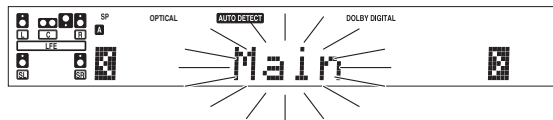
- センター成分の再生方法を、センタースピーカーのみの再生からフロントスピーカーのみの再生の間で調節できます。

主音声／副音声の切り換え (AAC信号入力時およびDolby Digitalモードのみ)

BSデジタル放送の2ヶ国語放送、音声多重放送の二重音声放送およびDolby Digitalのソースが音声多重で記録されているときは、主音声／副音声を切り換えることができます。

- ① **SOUND**キーを押し、“DUAL MONO”が表示されるまで▲/▼キーまたは、**Multi**(◀/▶)キーを繰り返し押し。
 - CD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2またはVIDEO 3の入力で、リッスンモードがAACのとき、および入力信号がDolby Digitalの時のみ選べます。
- ② **MULTI CONTROL**つまみまたは、**Multi**(△/▽)キーを使って音声を選ぶ。

- ① **Main** : 主音声
- ② **Sub** : 副音声
- ③ **Main+Sub** : 主音声+副音声
- ④ **Stereo** : 主音声が左側、副音声が右側



- モノラルではない二重音声放送は、音声の切り換えは本機ではできません。チューナー側で音声を切り換えてください。

ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

DIMMERキーを押すたびに3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。

- ① 明るい
- ② 普通
- ③ 暗い

96kHz リニアPCMの再生

96kHz リニアPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合はDSPモード以外のリッスンモードにしてください。

- **FULL AUTO** (フルオート) 入力モードでリッスンモードがDSPモードの時は、リッスンモードは自動的にSTEREOに切り換わります。
- **DIGITAL MANUAL** (デジタルマニュアル) 入力モードでリッスンモードがDSPモードの時、“96kHz LPCM”が表示され、スピーカーからは音が聞こえません。
LISTEN MODEつまみまたは**STEREO**キーでSTEREOモードに切り換えると、スピーカーから音が聞こえます。

他の機器をリモコンで操作する

リモコンにセットアップコードを登録すれば本機付属のリモコンでも他社製機器の操作が可能になります。

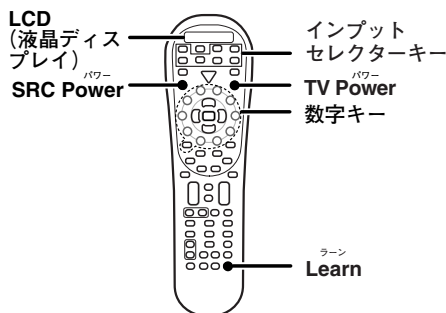
電池が消耗したときのご注意

操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り替えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。

お手持ちの機器のセットアップコードを登録する

リモコンのインプットセクターキーに、お手持ちの機器のリモコンに対応するセットアップコードを登録します。お手持ちの機器を登録すると、リモコンのインプットセクターキーで入力ソースを切り換えると本機リモコンで登録した機器を操作できるようになります。

- テープデッキ、MDへ録音するときなど、入力ソースは切り換えずに、リモコンのみ登録した機器を操作できるように切り換えることもできます。



1 登録する機器のセットアップコードを探す。

登録する機器のセットアップコードは、セットアップコード表の中から探してください。 - [44]

例：ケンウッド製のDVDを登録する場合、“0490”、“0534”または“0682”がセットアップコードとなります。

2 機器を登録するインプットセクターキー (DVD/6CH、CD/DVD、MD/TAPE、VID1、VID2、VID3、AV AUX、TV) を押す。

各インプットセクターキーに、登録できる機器は次の機器です。

インプットセクターキー	登録できる機器	機器を接続する入力端子
DVD 6CH	DVD	DVD/6CH(DVD)
CD DVD	CD または MD (ケンウッド)	CD/DVD(DVD)
MD/TAPE	カセットデッキ (ケンウッド)	MD/TAPE
VID1	ビデオデッキ	VIDEO1
VID2	登録するには、はじめにインプットセクターキーの登録機器の割り当てをかえる必要があります。	VIDEO2
VID3		VIDEO3
AV AUX	ビデオデッキ	AV AUX
テレビ TV	テレビ(含むビデオ内蔵型テレビ)	-

- 登録する機器に応じた機器が、本機の入力端子に接続されているか確認してください。
- インプットセクターキー“VID2”、“VID3”は、登録できる機器の割り当てをかえれば、2台目のDVD、CD、ビデオデッキなどを登録することができます。44ページ「インプットセクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる」をご覧ください。

3 リモコンのLCDに④が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

- ④が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

4 数字キーを使って機器に登録されている4桁のセットアップコードを入力する。

- 登録がおこなわれたときは④が2回点滅します。

5 登録した機器が動作するか確認する。

正しく登録が行われたかを確認するには、次の操作をし機器が動作するかを確認します。

登録された機器にリモコンを向け、SRC Powerキー(テレビの場合はテレビ TV Powerキー)を1回押します。正しく登録されていれば、機器の電源がオンまたはオフになります。

カセットデッキの場合は、カセットデッキの電源を入れ、カセットテープを入れて再生等の操作をします。正しく登録されていれば、操作に応じて機器が動作します。

機器が動作しないときは

機器に対応したセットアップコードが複数ある場合は、他のセットアップコードで、手順③～⑤の登録操作をします。

- 他の機器を登録するときは、手順①～⑤を繰り返します。
- 登録したセットアップコードを変更するときは、あらためて手順①～⑤の操作をし、セットアップコードを登録し直してください。
- 機器に対応した全てのセットアップコードを登録しても操作できないときは、本機リモコンの学習機能を使用して、機器のリモコンコードを直接リモコンに記録させることができます。 - [44]

お知らせ

各セットアップコードは多数の機器で動作するように設計されていますが、機器によっては動作しないものもあります。(また、セットアップコードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。)

お手持ちの機器のセットアップコードを探し登録する

お手持ちの機器のメーカー名を特定できないときやセットアップコード表から見つけ出すことができないとき、次の方法でセットアップコードを探し、登録することができます。

例：テレビのセットアップコードを探すとき

1 ④ TVキー 1回押す。

テレビ以外のセットアップコードを探すときは④TVキーのかわりに登録するインプットセクターキーを押します。

2 リモコンのLCDに④が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

- ④が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 数字キーで“991”を入力する。

- ④が2回点滅します。

4 登録したいTVに向けリモコンの、TV PowerキーとTVキーを交互にゆっくと押し、テレビの電源がオンかオフになったら操作をやめる。

- これらの操作では、リモコンからテレビの電源オン/オフの信号を送信し、コードが合えばテレビの電源はオンまたはオフになります。リモコンに登録されているコードを、一般的な製造メーカーのコードから順次送信します。

テレビ以外のセットアップコードを探すときは

DVD、CD、MD、ビデオデッキのセットアップコードを探すときは、手順①で押したインプットセクターキーとSRC Powerキーを交互に押し、登録する機器の電源がオンまたはオフになるかを確認します。

カセットデッキのセットアップコードを探すときは、機器の電源を入れ、テープを入れた状態で、手順①で押したインプットセクターキー(MD/TAPE)と再生キーなどを交互に押し、登録する機器が動作するか確認します。

5 Learnキーを1回押すと、コードが確定されインプットセクターキーに登録されます。

セットアップコードの確認

インプットセクターキーに登録した4桁のセットアップコードを確認することができます。

- 1 機器を登録したインプットセクターキーを押す。
- 2 リモコンのLCDに ④ が2回点滅するまで^{ラン}Learnキーを押し続け、^{ラン}Learnキーをはなす。
 - ④ が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。
- 3 数字キーで“990”を入力する。
 - ④ が2回点滅します。
- 4 数字キー“1”を押します。

4桁のコードの最初の桁の数字と同じ回数だけ ④ が点滅します。登録されているセットアップコードが“1338”の場合、ここでは1回 ④ が点滅します。コードの数字が“0”のときは、 ④ は点滅しません。
- 5 手順④と同様に数字キー“2”、“3”、“4”と順番に押し、それぞれの点滅回数を読み取りセットアップコードの各桁の数字を確認します。

インプットセクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる

各インプットセクターキーには、セットアップコードを入力して登録可能な機器があらかじめ割り当てられています。割り当てを変更することができます。

例えば、初期状態ではインプットセクターMD/TAPEキーはケンウッド製力セットデッキが登録できますが、MD/TAPEキーにCD/DVDキーと同様にMDレコーダーを登録するには次のようにキーの置き換え操作(インプットセクターキーに登録可能な機器の変更)をします。

- 1 リモコンのLCDに ④ が2回点滅するまで^{ラン}Learnキーを押し続け、^{ラン}Learnキーをはなす。
 - ④ が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。
- 2 数字キーで“992”を入力する。
 - ④ が2回点滅します。
- 3 CD/DVDキーを1回押し、MD/TAPEキーを1回押します。

④ が2回点滅し、CD/DVDキーとともにMD/TAPEキーにもMDレコーダー、CDプレーヤーを登録することができるようになります。使用する機器に応じたセットアップコードを登録してください。

手順④で押すキーを置き換えることにより、インプットセクターキーに登録できる機器をいろいろな組み合わせでかえることができます。例えば、インプットセクター“A”キーに“B”キーと同じ機器を登録できるようにキーの置き換えをするときは、数字キー“992”の次に“B”キー、“A”キーの順にキーを押します。

 - インプットセクターキーとお手持ちの機器の関連づけの組み合わせについては、前ページの表を参照してください。
 - キーの割り当てを元にもどすには、“992”の次にもどすインプットセクターキーを2回押します。
 - TUNERキーは、登録できません。

キーの置き換えとキーを押す順番の例

VID2キーにビデオデッキを登録する

VID2をVID1キーにする “992” → “VID1” → “VID2”

元にもどす

VID2をVID2キーにもどす “992” → “VID2” → “VID2”

VID3キーにDVDプレーヤーを登録する

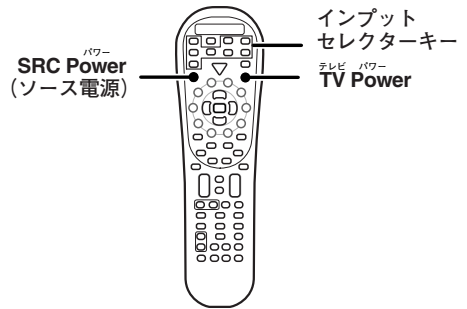
VID3をDVD/6CHキーにする “992” → “DVD/6CH” → “VID3”

元にもどす

VID3をVID3キーにもどす “992” → “VID3” → “VID3”

他の機器を操作する

リモコンのインプットセクターキーに登録した機器は、本機のリモコンで操作することができます。



- 1 インプットセクターキーを押して操作したい機器を選ぶ。

キーを押すと本機リモコンで登録した機器の操作ができるようになります。本機の入力も切り換わります。

本機の入力は切り換えず、リモコンのみ登録した機器を操作できるようにするには、インプットセクターキーを3秒以上押し続けます。

 - リモコンを本機の操作に戻すには、TUNER キーを3秒以上押し続けます。
- 2 機器の電源をオンにする。
 - リモコンに登録したDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、ビデオデッキは、本機リモコンのSRC Powerキーを押すと電源をオンにできます。
 - リモコンに登録したテレビは、本機リモコンの^{テレビ}TV Powerキーを押すと電源をオンにできます。
- 3 操作するキーを押す。
 - 各機器で使用できるキーは、49～51ページをご覧ください。

他の機器のリモコンコードを記憶させる

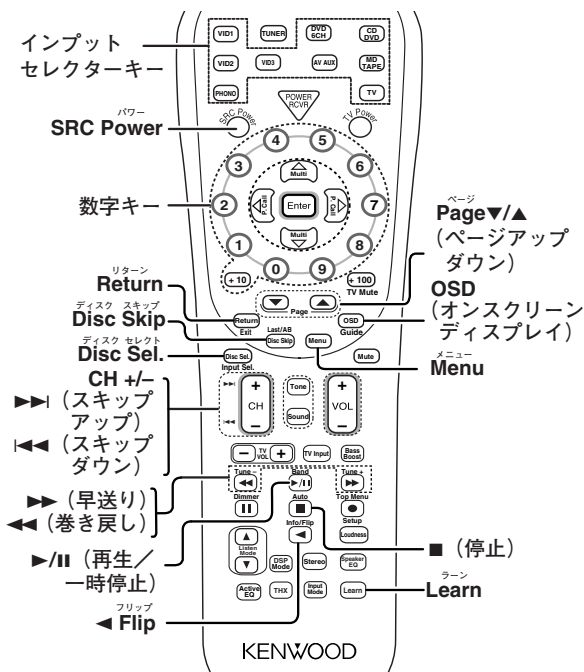
他の機器のリモコンコードを本機リモコンに直接記憶させることにより、セットアップコード表にない機器を操作したり、キー機能を追加記憶させて操作することができます。

お知らせ

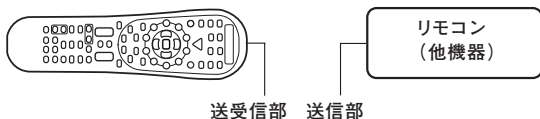
機器によっては、記憶できない場合もあります。

キーに登録する

下図のキーにリモコンコードを記憶させることができます。



- 1 記憶させたい機器のリモコンの赤外線送信部を、本機リモコンの赤外線送受信部に向ける。



- 2 リモコンのLCDに \odot が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

● \odot が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

- 3 数字キーで“975”を入力する。

- 4 本機リモコンの登録したい機器に対応するインプットセレクトキー(DVD/6CH、CD/DVD、MD/TAPE、VID1、VID2、VID3、AVAUX、TV)のいずれかを選択する。

●TUNERキーは、登録できません。

- 5 本機リモコンの記憶させたいキーを押す。

●リモコンのLCD(液晶ディスプレイ)に“LEARN”が表示されます。

- 6 本機リモコンに記憶させたい他の機器のリモコンのキーを押す。

リモコンコードが本機のリモコンに送信されます。リモコンコードの記憶が終了すると“OK”が表示されます。

●リモコンコードが記憶できない状態が何回か続くと“ERROR”が表示されます。この場合は手順2～6の操作をやり直してください。

- 7 同じリモコンの他のキーを記憶させるときは、手順5～6を繰り返す。

別のリモコンのキーを記憶させるときは、手順4～6を繰り返す。

- 8 \odot が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなし、LEARNモードを終了する。

記憶させた機能を消去するとき

本機リモコンに記憶させたリモコンコードを、キーごとに消去することができます。

- 1 リモコンのLCDに \odot が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

● \odot が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

- 2 数字キーで“976”を入力する。

- 3 消去したい機器に対応するインプットセレクトキーを押します。

- 4 消去したいキーを2回押します。

● \odot が2回点滅し、手順4で押したキーのリモコンコードが消去されます。

●他のキーのリモコンコードを消去するには、手順1～4を繰り返します。

リモコンに登録、記録した内容を全て消去するには

セットアップコードによる機器の登録、記憶させた内容全てを消去して、リモコンをお買い上げいただいたときの初期状態に戻すことができます。

- 1 リモコンのLCDに \odot が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

● \odot が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

- 2 数字キーで“981”を入力する。

● \odot が4回点滅し、リモコンに登録、記録した内容が全て消去されます。

セットアップコード表

カセットデッキセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Kenwood	0071, 0070, 0092, 0183, 0205, 0233, 0234, 0251, 0386

CDプレーヤー、MDレコーダーセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Kenwood	0028, 0190, 0338, 0339, 0826, 0037, 0340, 0523, 0626, 0677, 0858, 0859, 0681, 1490

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
AOC	0019,0030
Abex	0032
Admiral	0093,0463
Advent	0761
Adventura	0800
Aiko	0092, 0805
Aiwa	0701, 0800, 0802
Akai	0030
Alaron	0179, 0216
America Action	0180, 0805
Ampro	0751
Anam	0180
Apex Digital	0765, 0748, 0767
Asha	0804
Audiovox	0180, 0092, 0451, 0623, 0805, 0802
Baysonic	0180
Belcor	0019
Bell & Howell	0016, 0154
Beaumarck	0804
Bradford	0180
Brockwood	0019
Broksonic	0236, 0463, 0801, 0817, 0901
CCE	0803, 0805
CXC	0180
Calix	0802
Candle	0816, 0030, 0056
Carnivale	0030
Carver	0054
Celebrity	0000
Changhong	0765
Cineral	0451, 0092, 0805
Citizen	0186, 0056, 0030, 0060, 0092, 0802, 0805, 0816
Colt	0803
Concerto	0056
Contec	0180
Craig	0180, 0802, 0803, 0804
Crosley	0054
Crown	0180
Curtis Mathes	0060, 0030, 0016, 0047, 0054, 0056, 0093, 0145, 0154, 0166, 0451, 0466, 0702, 0747, 1147, 1347, 0809
Cybernex	0804
Daewoo	0092, 0623, 0019, 0451, 0816, 0805
Daytron	0019
Denon	0145
Dumont	0017, 0019
Dwin	0720, 0774
Dynatech	0800
Electroband	0000
Electrohome	0802
Electrophonic	0802
Emerson	0236, 0180, 0178, 0179, 0463, 0623, 0019, 0154, 0801, 0805, 0816, 0800, 0802, 0817
Envision	0030
Fisher	0154

セットアップコード表

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Fujitsu	0179, 0683
Funai	0180, 0171, 0179, 0800
Futuretech	0180
GE	0021, 0047, 1347, 0051, 0178, 0251, 0451, 1147, 0747, 0804, 0807, 0809, 0811
Garrard	0800
Gibraltar	0017, 0019, 0030
GoldStar	0178, 0019, 0030, 0032, 0802, 0814
Gradiente	0056, 0053, 0800
Grunpy	0179, 0180
Haier	0768
Hallmark	0178
Harley Davidson	0179, 0800
Harman/Kardon	0054
Harvard	0180
Harwood	0803
Havermy	0093
Hitachi	0145, 0056, 0016, 0032, 0800
Infinity	0054
Inteq	0017
JBL	0054
JCB	0000
JVC	0053
KEC	0180, 0802, 0805
KLH	0803
KTV	0180, 0030
Kamp	0216
Kawasho	0216
Kenwood	0030, 0019
Kodak	0802
Konka	0707, 0632, 0628, 0638, 0703, 0902
LG	0056
LXI	0154, 0047, 0054, 0156, 0178, 0747, 0802
Logik	0016, 0803
Llyod's	0800
Luxman	0056
MGA	0150, 0019, 0030, 0178, 0804
MGN Technology	0804
MTC	0060, 0030, 0019, 0056, 0216, 0800, 0804
Magnasonic	0816
Magnavox	0054, 0030, 0179, 0186, 1254, 1454, 0800, 0818
Magnin	0804
Majestic	0016
Marantz	0054, 0030, 0444
Marta	0802
Matsushita	0250, 0806
Megatron	0145, 0178
Memorex	0179, 0463, 0178, 0016, 0150, 0154, 0250, 0800, 0802, 0804, 0810, 0806, 0812, 0814, 0815
Midland	0017, 0032, 0047, 0051, 0747
Minutz	0021
Mitsubishi	0150, 0178, 0019, 0093, 0807
Motorola	0093
Multitech	0180, 0800, 0803

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
NAD	0156, 0166, 0178
NEC	0030, 0019, 0056, 0434, 0497
NTC	0092
Nikko	0178, 0030, 0092, 0802
Noblex	0804
Onwa	0180
Optimus	0250, 0166, 0154, 0806, 0812, 0815, 0802
Optonica	0093
Orion	0463, 0179, 0236, 0801, 0817
Panasonic	0051, 0250, 0806, 0812, 0815, 0809, 0907
Penney	0047, 1347, 0060, 0030, 0021, 0178, 0051, 0019, 0032, 0156, 0747, 0804, 0802, 0809, 0814
Philco	0145, 0019, 0030, 0054, 0463
Philips	0054, 1454, 0904
Pilot	0019, 0030, 0802
Pioneer	0166, 0679
Portland	0019, 0092
Princeton	0717
Prism	0051
Profitronic	0804
Proscan	0047, 0747, 0811
Proton	0466, 0178
Protec	0803
Pulsar	0017, 0019
Quasar	0051, 0250, 0812, 0806, 0809
RCA	0047, 1347, 1147, 0679, 1247, 0019, 0090, 0747, 1047, 1547, 0811, 0804, 0807, 0809, 0905
RadioShack	0180, 0030, 0178, 0154, 0019, 0032, 0047, 0056, 0747, 0800, 0810
Radix	0802
Randex	0802
Realistic	0180, 0154, 0030, 0178, 0019, 0032, 0056, 0800, 0802
Rhapsody	0216
Runco	0251, 0603, 0017, 0497, 0030
SSS	0019, 0180
Sampo	0030, 0032
Samsung	0060, 0019, 0178, 0766, 0030, 0032, 0056, 0427, 0702, 0804
Sansei	0451
Sansui	0463, 0800, 0817, 0901
Sanyo	0154, 0804
Scimitsu	0019
Scotch	0178
Scott	0236, 0019, 0178, 0179, 0180
Sears	0154, 0156, 0047, 0054, 0056, 0171, 0178, 0179, 0747, 0800, 0802, 0814
Semivox	0180
Semp	0156
Singer	0803
Sharp	0093, 0688, 0689, 0807, 0900
Shogun	0019, 0804
Shintom	0803
Signature	0016
Simpson	0186
Sony	0000, 1100, 0800, 0813

セットアップコード表

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Soundesign	0178, 0179, 0180, 0186
Squareview	0171
Starlite	0180
Supreme	0000
Sylvania	0054, 0171, 0030, 0800, 0818, 0903
Symphonic	0171, 0180, 0800
TMK	0056, 0178, 0804
TNCi	0017
Tandy	0093
Tatung	0396
Teac	0800
Technics	0051, 0250
Technol Ace	0179
Techwood	0051, 0056
Teknika	0186, 0016, 0054, 0179, 0180, 0019, 0092, 0056, 0060, 0150, 0800, 0802
Telefunken	0056, 0702
Thomas	0800
Toshiba	0156, 0060, 0154, 1256, 0808, 0906, 0901
Totevision	0802, 0804
Unitech	0804
Vector Research	0030
Victor	0053
Videomagic	0802, 0804
Vidikron	0242, 0054
Vidtech	0019, 0178
Villain	0800
Wards	0054, 0178, 0016, 0019, 0021, 0030, 0056, 0179, 0800, 0804, 0803
Waycon	0156
White Westinghouse	0623, 0463, 0803, 0816
XR-1000	0803, 0800
Yamaha	0019, 0030, 0769
Zenith	0017, 0016, 0092, 0463, 0800, 0817

ビデオセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Admiral	0048, 0209
American High	0035
Bell & Howell	0104
Broksonic	0121, 0184, 0209, 1479
Canon	0035
Carver	0081
Craig	0047
Curtis Mathes	0035, 0060, 0162, 0760
Daewoo	0045
Denon	0042
Emerex	0032
Emerson	0184, 0209, 0121, 0479, 0043
Fisher	0047, 0104
Fuji	0033, 0035
GE	0035, 0060, 0760
Go video	0432
GoldStar	0038
HI-Q	0047
Harman/Kardon	0038, 0081
Hitachi	0042
Hughes Network Systems	0042
JVC	0067
Kenwood	0067, 0038
Kodak	0035
MEI	0035
MGA	0043
Magnavox	0035, 0081, 0563, 0039, 0149
Marantz	0081, 0035
Matsushita	0035, 0162
Memorex	0104, 0047, 0479, 0048, 0035, 0039, 0162, 0209
Minolta	0042
Mitsubishi	0043, 0067
Motorola	0035, 0048
NEC	0038, 0067, 0104
Olympus	0035
Optimus	0162, 0048, 1062, 1048, 0104, 0432
Orion	0479, 0184, 0209
Panasonic	0035, 0162, 1062, 0225, 0616
Penney	0035, 0042, 0038
Pentax	0042
Philco	0035, 0209, 0479
Philips	0081, 0035, 0618, 1081, 1181
Pioneer	0067
Polk Audio	0081
Proscan	0060, 0760
Pulsar	0039
Quasar	0035, 0162
RCA	0060, 0042, 0149, 0760
Realistic	0104, 0047, 0048, 0035
ReplayTV	0614, 0616
Runco	0039
STS	0042
Samsung	0045
Sanky	0039, 0048
Sansui	0479, 0067, 0209
Sanyo	0047, 0104

セットアップコード表

ビデオセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Scott	0184, 0121, 0043, 0045
Sears	0042, 0035, 0047, 0104
Semp	0045
Sharp	0048, 0848
Sonic Blue	0614, 0616
Sony	0033, 0032, 0636, 0035, 1032
Sylvania	0035, 0081, 0043
Technics	0035, 0162
Teknika	0035
Tivo	0618, 0636
Toshiba	0045, 0043
Vector	0045
Vector Research	0038
Video Concepts	0045
Victor	0067
Wards	0035, 0060, 0047, 0042, 0048, 0081, 0149, 0760
White Westinghouse	0209
XR-1000	0035
Yamaha	0038
Zenith	0039, 0479, 0033, 0209

DVDプレーヤーセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Aiwa	0641
Apex Digital	0755, 0796, 0672, 0717, 0794, 0795, 0797, 0830
Audiologic	0736
B&K	0655
Blue Parade	0571
DVD2000	0521
Daewoo	0784
Denon	0634, 0490
Emerson	0591
Enterprise	0591
Fisher	0670
GE	0717, 0522, 0815
GPX	0769, 0699
Go Video	0715, 0783
Gradiente	0651
Greenhill	0717
Harman/Kardon	0582, 0702
Hitachi	0573, 0664
Hiteker	0672
JBL	0702
JVC	0623, 0558, 0867
KLH	0717
Kenwood	0534, 0490, 0682
Konka	0711
Koss	0651
Lasonic	0798
Magnavox	0503, 0675
Malata	0782
Marantz	0539
Microsoft	0522
Mintek	0717
Mitsubishi	0521
Nesa	0717
Onkyo	0627, 0503
Oritron	0651
Panasonic	0490, 1490, 0632
Philips	0539, 0646, 0503
Pioneer	0571, 0525, 0632
Polk Audio	0539
Princeton	0674
Proscan	0522
RCA	0522, 0571, 0822, 0717
Rowa	0823
Sampo	0698
Samsung	0573, 0820
Sanyo	0670
Sherwood	0633
Shinsonic	0533
Sony	0533
Sylvania	0675
Technics	0490
Techwood	0692
Theta Digital	0571
Toshiba	0503
Tredex	0800, 0799, 0803, 0804
Urban Concepts	0503
Victor	0623, 0558, 0867
Yamaha	0545, 0490, 0817, 0539
Zenith	0591, 0503

カセットデッキ、CDプレーヤー、MDプレーヤー操作

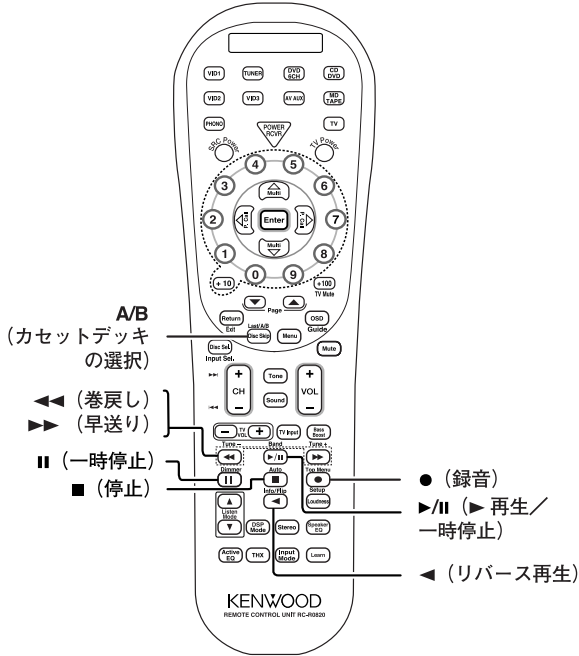
各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

- ① 入力するソースを選ぶ。
- ② 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

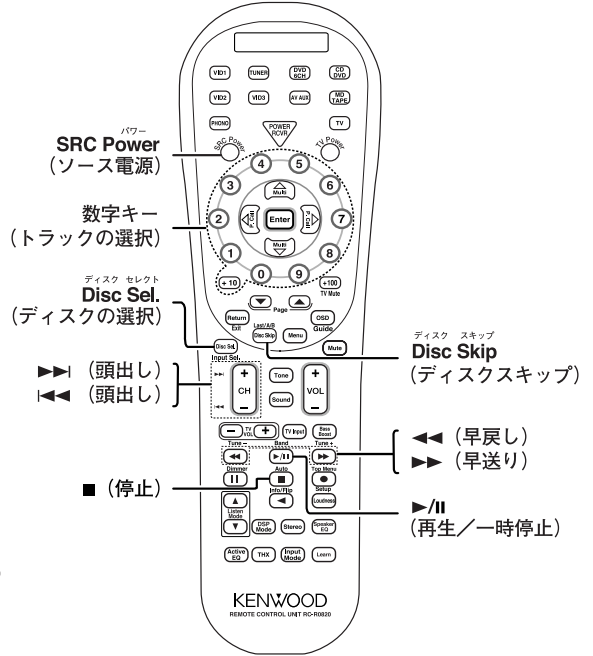
- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかりと押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 - 45

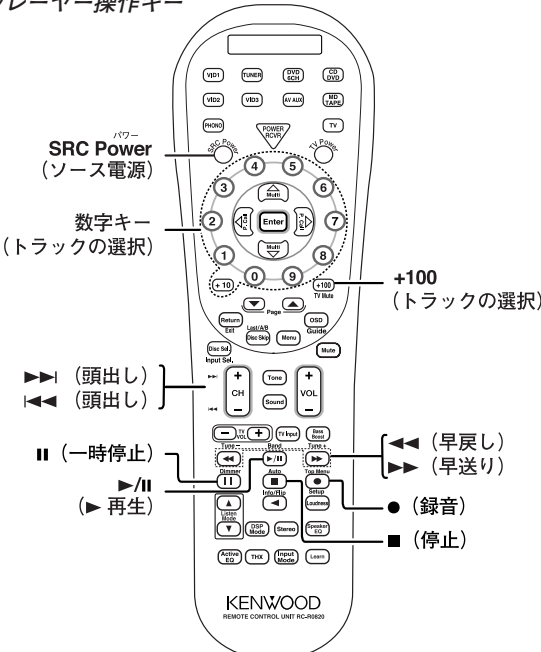
カセットデッキ操作キー



CDプレーヤー操作キー



MDプレーヤー操作キー



テレビ、ビデオデッキ操作

各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

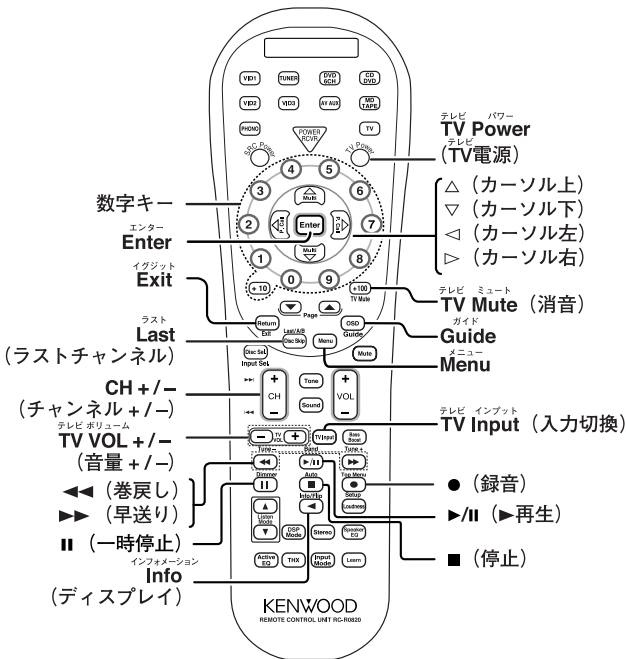
- ① 入力するソースを選ぶ。
- ② 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかりと押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

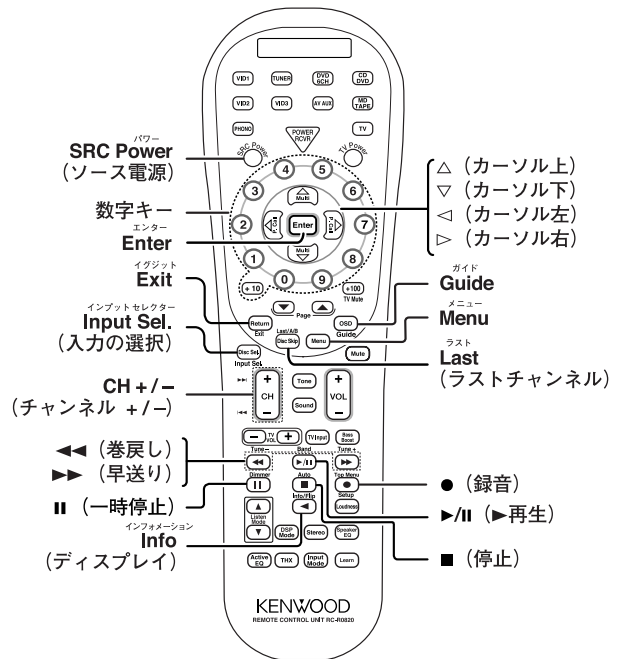
本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 - 45

テレビ操作キー

(含むビデオ内蔵型テレビ)



ビデオデッキ操作キー



DVDプレーヤー操作

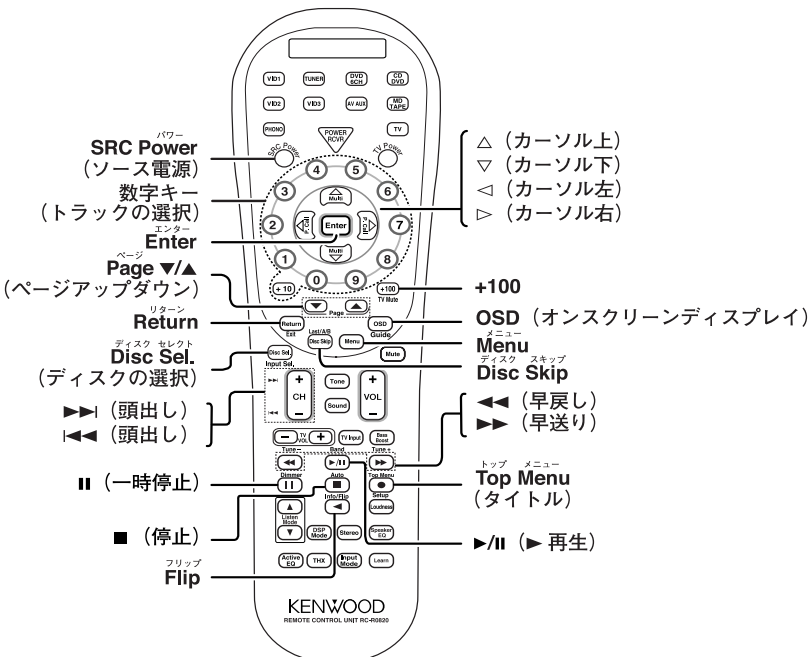
各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

- ① 入力するソースを選ぶ。
- ② 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかりと押し、1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 → 49

DVDプレーヤー操作キー



故障かな?と思ったら

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントに差し込んだままで、POWER ON/OFFキーをオフにして、ON/STANDBYのキーを押しながら、POWER ON/OFFキーをオンにする。

●リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症状	原因	処置
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●MUTEがオンになっている。 ●スピーカースイッチがオフになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 → [19] ●適当な音量にする。 ●MUTEを解除にする。 → [29] ●スピーカースイッチをオンにする。 → [28]
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがショートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●主電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源を入れる。
いずれかのスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●スピーカーが正しく設定されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 → [19] ●「スピーカーの設定をする」をみて正しく設定し直す。 → [24]
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	<ul style="list-style-type: none"> ●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ●スピーカーが正しく設定されていない。 ●サラウンドモードになっていない。 ●サラウンドレベルおよびセンターレベルが最小になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「スピーカーの接続」を見て正しく接続し直す。 → [19] ●「スピーカーの設定をする」をみて正しく設定し直す。 → [24] ●サラウンドモードにする。 ●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。 → [25]
入力切換キーをPHONOにするとブーンという音が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ●オーディオコードがプレーヤーのPHONO端子にしっかりと差し込まれていない。 ●プレーヤーの信号用アース線が接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●オーディオコードをPHONO端子にしっかりと差し込む。 ●信号用アース線を背面のマークの端子に接続する。
DVDプレーヤーでドルビーデジタルのソースの再生を始めると最初の音切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。 → [12]
DVDを再生しても、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●INPUT MODEキーを押して、デジタルオートを選ぶ。 → [12]
ビデオ入力からの録画ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ●コピープロテクトがかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。
BSデジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●AAC信号が入力されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●BSデジタルチューナーのデジタル出力の設定をAAC出力にする。
BSデジタル放送の音声切り換えができない。	<ul style="list-style-type: none"> ●放送によっては音声は本機では切り換えることができません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●BSデジタルチューナー側で音声を切り換える。

チューナー部

症状	原因	処置
放送局が受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンテナを接続する。 → [22] ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。 → [32]
雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。

リモコン操作

症 状	原 因	処 置
リモコンを使って、選べない入力がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●各入力に対して、セットアップ(IR)コードが登録されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの入力に対するセットアップコードまたは入力表示用のコードを登録する。 -[45]
リモコンで操作できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●リモコンが違った操作モードに設定されている。 ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。 ●操作をしようとしている装置がリモートコントロールの操作モードに登録されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●インプットセレクターキーを押して、適切な操作モードを選ぶ。 ●新しい電池と交換する。 ●操作範囲内で操作する。 -[23] ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。 ●登録する。 -[42]

オーディオ部

ステレオ モード

定格出力 (JEITA) (20 Hz ~ 20 kHz, 0.09%, 6 Ω)
 100 W + 100 W
 実用最大出力 150 W + 150 W (JEITA, 6 Ω)

サラウンドモード (1ch動作時)

実用最大出力
 FRONT 150 W + 150 W (1 kHz, 10%, 6 Ω)
 CENTER 150 W (1 kHz, 10%, 6 Ω)
 SURROUND 150 W + 150 W (1 kHz, 10%, 6 Ω)
 SURROUND BACK 150 W + 150 W (1 kHz, 10%, 6 Ω)

最大出力
 FRONT 100 W + 100 W (1 kHz, 0.09%, 6 Ω)
 CENTER 100 W (1 kHz, 0.09%, 6 Ω)
 SURROUND 100 W + 100 W (1 kHz, 0.09%, 6 Ω)
 SURROUND BACK 100 W + 100 W (1 kHz, 0.09%, 6 Ω)

全高調波歪率 0.009% (1 kHz, 50 W, 6 Ω)

周波数特性

CD/DVD, TAPE, VIDEO 1, VIDEO 2, VIDEO 3, DVD/6CH
 (10 Hz ~ 100 kHz) + 0 dB ~ -3 dB

イコライザ偏差 (40 Hz ~ 20 kHz) +1.5 dB ~ -3 dB

最大許容入力電圧

PHONO (MM) 40 mV, 1%

SN比 (IHF'66)

PHONO (MM) 75 dB (JEITA)
 CD/DVD, TAPE, VIDEO 1, VIDEO 2, VIDEO 3, DVD/6CH
 95 dB (JEITA)

入力端子 (感度/インピーダンス)

PHONO (MM) 4 mV / 47 kΩ
 CD/DVD, TAPE, VIDEO 1, VIDEO 2, VIDEO 3, DVD/6CH
 300 mV / 47 kΩ

出力端子 (レベル/インピーダンス)

TAPE REC 300 mV / 1 kΩ
 PRE OUT (FRONT, CENTER, SURROUND) 1 V / 500 Ω
 PRE OUT (SURROUND BACK) 1 V / 500 Ω
 PRE OUT (SUBWOOFER) 1 V / 500 Ω

トーン コントロール特性

BASS ±10 dB (100 Hz)
 TREBLE ±10 dB (10 kHz)

ラウドネス コントロール特性

VOLUME -30 dBレベル +6 dB (100 Hz)

デジタル部

対応サンプリング周波数 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz, 96 kHz

入力端子 (感度/インピーダンス/波長)

オプティカル -15 dBm ~ -24 dBm, 660 nm ±30 nm
 コアキシャル 0.5 Vp-p / 75 Ω

出力端子 (感度/インピーダンス/波長)

オプティカル -21 dBm ~ -15 dBm, 660 nm ±30 nm

ビデオ部

入力端子/出力端子 (感度/インピーダンス)

VIDEO (コンポジット) 1 Vp-p / 75 Ω

S VIDEO (感度/インピーダンス)

S VIDEO (Y-信号) 1 Vp-p / 75 Ω
 S VIDEO (C-信号) 0.286 Vp-p / 75 Ω

COMPONENT VIDEO (感度/インピーダンス)

COMPONENT VIDEO (Y-信号) 1 Vp-p / 75 Ω
 COMPONENT VIDEO (CR/CB-信号) 0.7 Vp-p / 75 Ω

FM チューナー部

受信周波数範囲 76 MHz ~ 90 MHz
 アンテナインピーダンス 75 Ω 不平衡
 実用感度 (モノラル75 Ω) 1.6 μV (75 Ω) 15.2 dBf
 (75 kHz DEV, SINAD 30 dB)

高調波ひずみ率 (1 kHz)

モノラル 0.3 %
 ステレオ 0.7 %

SN比

モノラル 75 dB (65 dBf 入力時)
 ステレオ 68 dB (65 dBf 入力時)

実効選択度 (±400 kHz) 50 dB

ステレオセパレーション (1 kHz) 36 dB

周波数特性 (30 Hz ~ 15 kHz) + 0.5 dB ~ -3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 531 kHz ~ 1,602 kHz
 実用感度 (30%mod., S/N 20 dB) 18 μV (600 μV/m)
 SN比 (30%mod., 1 mV 入力時)
 モノラル 48 dB

電源部・その他

定格消費電力 (電気用品安全法に基づく表示) 250 W
 待機時消費電力 0.5 W以下
 ACアウトレット 連動、最大90 W
 最大外形寸法 幅: 440 mm
 高さ: 159 mm
 奥行: 392 mm
 重量 (正味) 12.0 kg

ご注意

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い (水が凍るような) 場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- 電源オン/オフの状態
- 入力切換の設定
- 映像出力
- スピーカーオン/オフ
- スピーカースettings
- ボリュウムの値
- BASS, TREBLE, INPUTレベル
- TONE オン/オフ
- LOUDNESS オン/オフ
- DIMMERレベル
- MD/TAPE選択モード
- リッスンモードの設定
- 距離の設定
- インプットモードの設定
- サウンドモードの設定
- 受信バンド
- 周波数
- プリセット放送局
- 受信方法
- THXモード
- ACTIVE EQモード
- SPEAKER EQモード
- AAC音声設定
- メモリーバックアップの内容

保証とアフターサービス(よくお読みください)

保証書(別途添付)

製品には保証書が(別途)添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。(お問い合わせ先は、「ケンウッドサービス網」をご覧ください。)

補修用性能部品の保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は

「故障かな?と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証期間が過ぎている時は

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号 (Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

修理料金の仕組み

(有料修理の場合は、次の料金をいただきます)

- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買い上げ店名

電話 () -

製品に対するお問合せ、アフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

北海道

札幌サービスセンター	☎007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	☎(011) 743-7740
------------	-----------	-------------------	-----------------

東北

仙台サービスセンター	☎984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和)	☎(022) 284-1171
盛岡サービスステーション	☎020-0124	盛岡市厨川4-5-11	☎(019) 646-2311

関東・甲信越

埼玉サービスセンター	☎331-0812	さいたま市北区宮原1-311-1加茂宮ビル1F	☎(048) 664-3611
千葉サービスセンター	☎277-0081	柏市富里1-2-1	☎(04) 7163-1441
東京サービスセンター	☎169-0073	新宿区百人町2-16-15(MYビル1F)	☎(03) 3363-1650
神奈川サービスセンター	☎226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎(045) 939-6242
新潟サービスステーション	☎950-0923	新潟市姥ヶ山1-5-37	☎(025) 287-7736
静岡サービスステーション	☎420-0816	静岡市沓谷5-61-1	☎(054) 262-8700

中部

名古屋サービスセンター	☎462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎(052) 917-2550
松本サービスステーション	☎390-0832	松本市南松本2-7-30(昭和ビル2F)	☎(0263) 26-7331
金沢サービスステーション	☎920-0036	金沢市元菊町21-87	☎(076) 265-5045

近畿・四国

大阪サービスセンター	☎532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎(06) 6394-8075
高松サービスステーション	☎760-0068	高松市松島町3-1	☎(087) 835-2413

中国

広島サービスセンター	☎731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎(082) 832-2210
------------	-----------	-----------------	-----------------

九州

福岡サービスセンター	☎815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎(092) 551-9755
鹿児島サービスステーション	☎890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	☎(099) 251-6347
沖縄サービスステーション	☎901-2132	浦添市伊祖1-5-2	☎(098) 874-9010

カスタマーサポートセンター	☎226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎(045) 933-5133	FAX (045) 933-5553
---------------	-----------	---------------	-----------------	--------------------

☎(06) 6394-8085 (横浜へ自動転送されます。大阪市内への通話料でご利用いただけます。)

- ケンウッドサービス窓口 営業時間のご案内
月曜日～金曜日(土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く) 午前10時から午後6時まで
- カスタマーサポートセンター 営業時間のご案内
月曜日～金曜日(土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く) 午前9時から午後6時まで
(各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください)

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525 東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

電話 (045) 933-5133 (06) 6394-8085 (横浜へ自動転送されます。大阪市内への通話料でご利用いただけます。)

FAX (045) 933-5553

住所 〒226-8525 横浜市緑区白山 1-16-2

アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。